



国立大学法人

旭川医科大学

令和8年度概要



National University Corporation
Asahikawa Medical University

ロバストな（たくましい） 医科大学を目指して

日頃より本学をご支援いただき、ありがとうございます。本学は医師不足を解消し、道北・道東の地域医療を支えることを目的に1973年に設立された国立医科大学です。開学以来、本学は6,800名を超える医師や看護職者を輩出しています。卒業生の多くは地域に定着し、保健・医療・福祉に貢献するとともに、日本国内、世界におけるさまざまな分野で医療者、研究者として活躍しています。半世紀の年月を経て、社会情勢は大きく変遷を遂げましたが、本学の不変かつ最も重要なミッションは、道北・道東の地域医療の要としての役割を担うため、優れた医師・看護職者を養成し、地域社会を先導する人材を育成することです。また、国立大学として高度医療を担うレベルの高い人材を育成し続けるために、基礎研究・臨床研究を通じた医学・看護学・医療への貢献も同時に目指しております。

私たちは、本学のミッションを実現するために、互いに連関する4つの重要な目標を定めています。1つ目は「過疎化に伴う医療危機の克服」です。現在、少子・高齢化、過疎化の進行に伴い、地域医療の危機が叫ばれていますが、本学独自のリレー式医療支援や遠隔医療支援などを通して地域の医療課題を克服するために中心的役割を担っていきます。2つ目は「急速に進む少子化の中での地域医療人材確保」です。地域医療に強い意欲と使命感を持つ優れた医師・看護職者を養成し、地域に根差した医療人材を安定的に確保していきます。そのためにも、教育の質保証を前提として地域枠入試制度を継続することが有意義であると考えています。また、医師の地域偏在問題を解決するためには、現在、本学地域共生医療センターを中心として進めておりますマルチタスク型地域医療医育成プロジェクト、内科合同会議、外科合同会議により、大学全体として地域医療人育成に積極的に関与していきます。3つ目は「地域医療人育成」です。本学は道北・道東地域の唯一の中核市である旭川市において高度人材の育成に関わることで地域社会を先導し、地域産業との連携を通じて地域全体の活性化に貢献していきます。また、医師・看護師のリスキリング・リカレント教育に積極的に取り組みます。4つ目は「アカデミアとしての研究力の向上」です。本学はこれまで以上に基礎研究・臨床研究を通して医学・看護学・医療の進歩に貢献していかなければなりません。地域医療への貢献とアカデミアとしての研究力向上を両立させることが本学の目標であり、地方大学からも日本および国際医療を牽引する高度医療人材を輩出できることを実証していきます。本学は多くの大学や研究機関と包括連携協定を結んでおり、このようなネットワークを最大限に生かすことも本学を大きく発展させるために大切であると考えています。

時代が大きく変化し、国立大学は試練の時を迎えていますが、地域の皆様の保健・医療・福祉のためにも、医学・看護学の発展のためにも、本学は真の意味でたくましい医科大学として成長していかなければなりません。今はそのような大学に変革するための絶好のチャンスだと考えています。「たくましい」に相当する英単語「ロバスト(robust)」はラテン語のrobur(オークの木、ミズナラなど)を語源としています。私は本学のあるべき姿をしっかりした頼りがいのある幹から教育、研究、医療の3つの太い枝が天に向かって伸びていくミズナラの木としてイメージしています。市民の方々の本学に対する熱い期待を受け止め、教職員が協力し合うことで医科大学としての大切な使命を果たしていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



第8代学長
令和4年4月1日～

西川 祐司

INDEX 目次

02	教育理念・目標
04	大学のミッション 法人の基本的な目標(第4 期中期目標期間)
05	ディプロマ・ポリシー[学位授与の方針]
07	カリキュラム・ポリシー[教育課程編成・実施の方針]
10	アドミッション・ポリシー[入学者受入れ方針]
14	トピックス
18	研究成果トピックス
21	沿革
22	組織機構図
23	役職員・歴代学長等
27	講座及び学科目等
28	学生数等・学年暦
31	研究領域等
34	旭川医科大学病院
37	診療実績[令和7年度]
39	図書館／保健管理センター
40	研究推進本部 動物実験施設／実験実習機器センター 放射性同位元素研究施設
41	看護職キャリア支援センター 専門医・育成管理センター
42	遠隔医療センター／学内共同利用施設
43	社会連携
44	国際交流
45	教育・研究費等
46	土地・建物配置図
48	位置図

教育理念・目標

大学の理念

豊かな自然環境の中で真摯な教育及び研究活動を行い、医学・看護学の発展に尽くすとともに、地域及び国際社会における保健・医療・福祉の向上に貢献する。

大学の使命

少子・高齢化及び人口減少が急速に進む北海道の地域医療を支えることに重点を置き、献身的かつ有能な医師及び看護職者を育成することで地域社会の保健・医療・福祉を安定的に向上させる。また、独自性の高い研究活動と先進的な医療活動を通して医学・看護学の発展に貢献する。

医学部 医学科

教育理念

豊かな人間性と高い倫理観を備え、高度な知識・技能と幅広い学問的視野を持ち、医学の発展及び保健・医療・福祉の向上を通じて社会に貢献する強い意志を有する医療人及び研究者を育成する。

教育目標

旭川医科大学は上記の理念の下にこれらを達成するため、次のような目標を掲げる。

- 1 広く深い教養とコミュニケーション能力を身につけ、他者を思いやることのできる豊かな人間性を育む。
- 2 生命を尊重するとともに、倫理的配慮の下に人々の多様性及び人権を擁護し、信頼関係を築ける人材を育てる。
- 3 進歩した専門的知識・技能を修得するとともに、生涯にわたり学修及び研究を継続する強い意志を育む。
- 4 地域住民の医療や福祉の実態を理解し、問題点の解決に実質的に貢献するための能力を養う。
- 5 保健・医療・福祉の向上を通じて地域及び国際社会の発展に尽そうとする幅広い視野と意欲を涵養する。

医学部 看護学科

教育理念

未来を切り開く開拓者精神と生命の尊厳を責め人間性を備え、責務 (Accountability) ・権能 (Authority) ・自律 (Autonomy) を基盤に据えながら、先進的な保健・医療・福祉活動を通じて、看護学の発展と共に地域社会に貢献する人材を育成する。

教育目標

旭川医科大学は上記の理念の下にこれらを達成するため、次のような目標を掲げる。

- 1 広い視野をもちながら、北海道の地域特性を理解し、より良い未来に向け積極的に行動する態度を養う。
- 2 幅広い人間理解に基づく倫理観を培い、共感性をもって人々と信頼関係を育むことができる豊かな人間性を養う。
- 3 看護専門職として自己研鑽する力を持ち、チーム活動を通して自律性と看護実践能力を養う。
- 4 地域住民の医療や福祉の実態を理解し、問題点の解決に実質的に貢献するための能力を養う。
- 5 保健・医療・福祉の活動に参画することで、多様な立場の人々と協働し健康課題を解決し、生涯にわたり看護と地域及び国際社会に貢献する意欲を養う。

大学院医学系研究科

基本理念

- 1 医療系大学院として、基礎研究と臨床研究の多様な取組を通し、医学・看護学の総合的な発展を図ります。
- 2 自主・自律の精神を以て深く真理を探究し、真摯な研究活動を通して知の創造を目指します。
- 3 多様で調和のとれた教育体系のもと、豊かな教養と高い人間性、厳しい倫理観を備えた、優れた研究者と高度の専門能力を持つ人材を育成します。
- 4 開かれた大学院として、地域に根ざすと同時に世界との連携にも努め、医療福祉の向上と国際社会の調和に貢献します。

教育目標 博士課程医学専攻

- 1 秀でた独創性、豊かな人間性、厳しい倫理観を備えた、医学教育者・研究者の育成
- 2 地域社会の医療福祉の充実のために、指導的な役割を担える高度専門職業人の育成
- 3 国際社会で、医学・医療の取組を通し、その普遍的価値を共有できる人材の育成

教育目標 修士課程看護学専攻

- 1 豊かな人間性、優れた研究能力、高い倫理観を備えた、看護学教育者・研究者の育成
- 2 看護専門職者として、優れた問題解決能力を発揮し、指導的役割を担える人材の育成
- 3 看護学の取組を通して、地域社会における保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成



大学のミッション

旭川医科大学の強みや特色を延ばし、さらなる教育・研究・医療の発展、意欲ある医療人の育成など、その社会的役割(ミッション)を果たしていきます。

医学系

- 旭川医科大学の建学の理念に基づき、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医師・研究者等の養成を積極的に推進する。特に、道内の高校や医療機関と連携し、地域医療に対する強い意欲・使命感を持った学生の積極的な受入れを推進する。
- 北海道の医療支援の実績から発展した遠隔医療の研究、高齢化に対応した脳機能医工学研究の推進等、地域特性に対応した様々な研究を始めとする研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。
- 橋渡し研究支援拠点として、基礎研究成果の臨床への応用を強力に推進することにより研究成果の実用化を図り、日本発のイノベーション創出を目指す。
- 北海道と連携し、道内の地域医療を担う医師の確保及びキャリア形成を一体的に推進し、広大な北海道の医師偏在の解消に貢献する。
- 地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域災害拠点病院等として、地域医療の中核的役割を担う。

看護系

- 旭川医科大学の建学の理念に基づき、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に寄与するため、豊かな人間性と思考力、高い倫理感を有する看護職を育成する。特に、臨地実習までの学習成果を確認し客観的臨床能力試験(OSCE)を導入するとともに能動的学修空間を整備するなど、学生の意欲に応えるため、教育内容や学修環境を充実させ、教育効果を高める。
- がん看護専門看護師を始め急激な高齢化に対応した高度専門的人材や指導的な人材を育成するとともに、看護職の復職支援等によって看護師不足に対応し、道北・道東を始めとする地域の医療へ貢献する。
- 遠隔看護の研究等の取組を活かし、広大かつ厳しい気候条件にある道北・道東を始めとする地域の住民の健康保持に貢献する。発展途上国の保健行政・母子保健における医療人材の育成の取組を活かし、国際性豊かな医療人を育成し、国際社会への貢献を目指す。

法人の基本的な目標 (第4期中期目標期間)

旭川医科大学は、地域医療を担う人材育成という大学設置の原点を踏まえ、更なる教育・研究・医療等の発展、意欲ある医療人の育成、社会貢献等を果たすため、以下の基本的な目標を定める。

- 1 豊かな人間性と基礎的能力を育む教育を通じ、研究力、実践的能力を持ち、国際的感覚を備えた意欲的な医療人を育成する。
- 2 リサーチマインドを涵養し、独創的で質の高い研究を推進する。
- 3 ステークホルダーとの共創により、地域社会の活性化を図る。
- 4 地域医療の充実と先端的な医療の推進を図り、多職種協働による安全でレベルの高い医療を提供する。
- 5 大学ガバナンス体制の点検・見直しを進め、安定した財務基盤を構築する。

ディプロマ・ポリシー〔学位授与の方針〕

医学部 医学科〔学士課程〕

旭川医科大学医学部医学科では、教育の理念及び目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、以下の資質と能力を身につけたと認められる学生に対し、学士（医学）の学位を授与します。

1. 倫理観とプロフェッショナリズム（態度）

豊かな人間性と高い倫理観を備え、人々の多様性及び人権を擁護するとともに、チーム医療に基づいた医療を献身的に実践できる。

2. 医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力（知識・態度）

幅広い豊かな教養と進歩した専門的知識を身につけ、それらに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習及び研究の継続が必要なことを理解できる。

3. 基本的診療能力、全人的な医療の実践（技能）

他者を思いやることができるコミュニケーション能力を身につけ、患者や患者の家族と信頼関係を築くことができる。また、基本的診療能力を有し、幅広い健康問題について診断と治療の原則を理解し、患者・生活者に総合的に貢献できる。

4. 問題解決能力、発展的診療能力、研究心（思考・判断）

医学研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考のもとに診療に応用することができる。また、倫理原則に基づいた研究計画を立案できる。

5. 地域社会・国際社会へ貢献するための能力（意欲・関心）

地域社会及び国際社会の発展に関心を持ち、保健・医療・福祉に対する社会的ニーズを把握するとともに、社会のさまざまな問題に対して積極的に取り組むことができる。

医学部 看護学科〔学士課程〕

旭川医科大学医学部看護学科では、教育の理念及び目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、以下の資質と能力を身につけたと認められる学生に対し、学士（看護学）の学位を授与します。

1. 倫理観・プロフェッショナリズムを備えた人間力（姿勢・態度）

多様な価値観や文化的背景を理解し、誠実で良識ある姿勢・態度をもって行動する能力を身につけている。また、人々の生命と健康を守るため、さまざまな問題に対し最善を尽くす姿勢・態度を身につけている。

2. 地域社会・国際社会へ貢献するための能力（意欲・関心）

地域から国際社会に至る社会的ニーズに応えるために、多様な立場の人々と協働し貢献する意欲がある。

3. 看護学と保健・医療・福祉の看護関連領域に関する十分な知識と生涯学習能力（知識・態度）

幅広い教養を身につけ、看護学の専門的知識を習得している。また、看護の専門職として、自己研鑽し学び続ける能力を有する。

4. 問題発見から解決を図るための能力（思考・判断）

看護に関する問題を発見し、解決するための論理的思考力、問題解決能力及び研究能力を身につけている。また、医療における情報・科学技術を理解し、適切な看護ケア提供のために情報通信技術（Information and Communication Technology [ICT]）や人工知能（Artificial Intelligence [AI]）を活用できる。

5. 根拠に基づいた基礎的看護実践能力（技能・表現）

すべてのライフステージ及び健康レベルに応じた、根拠に基づく基本的な看護実践ができる。

医学系研究科医学専攻[博士課程]

旭川医科大学大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)では、教育の目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、基準となる単位数を修得し、次の資質と能力を身につけたと認められ、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に対し学位[博士(医学)]を授与します。

「倫理観とプロフェッショナリズム」(態度)

- 研究者コース** 生命の尊厳を尊重し、医の倫理、研究者の倫理を理解し、これらを踏まえた基礎研究を遂行できる。また、解決すべき問題を自ら見出し、それらを探究する意欲を持ち、さらに専門家による批評に堪えうる世界レベルの質の高い研究を志向する態度を持っている。
- 臨床研究者コース** 生命の尊厳を尊重し、医の倫理、研究者の倫理を理解し、チーム医療に基づいた高度の専門的医療を実践できる。また、解決すべき問題を自ら見出し、それを探究する意欲を持っている。

「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)

- 研究者コース** 基礎研究に関する幅広く深い知識のみならず、自らの基礎研究と医学との関わりについて理解するための基本的医学知識を持っている。また、最先端の研究を遂行するために生涯にわたる学習が必要であることを理解し、その方法を身につけている。
- 臨床研究者コース** 基礎医学の素養に裏打ちされた、臨床医学、社会医学に関する専門的な知識を持っている。また、これらに基づいた医療および研究を実践するために生涯にわたる学習が必要であることを理解し、その方法を身につけている。

「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力、研究遂行能力」(技能)

- 研究者コース** 豊かな人間性に基づいた知的好奇心を持ち、医学・医療の発展に寄与しうる専門的かつ独創的な基礎研究を実践できる。
- 臨床研究者コース** 豊かな人間性を持って患者、患者家族と接し、患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療のための実践的臨床能力を身につけ、臨床研究を実践できる。また、高度の専門性が必要な診断と治療を実践できる。

「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)

- 研究者コース** 基礎研究の意義を理解し、科学的情報を収集し客観的に評価するとともに、これらを自らの研究に役立てることができる。また、未解決の問題を、強い探究心を持って論理的、科学的に追求できる。
- 臨床研究者コース** 基礎医学、臨床医学、社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し客観的に評価するとともに、これらを診療に応用することができる。また、未解決の問題を、論理的、科学的に探究できる。

「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)

- 研究者コース** 自らの基礎研究を通じ医学・医療の発展に寄与することで、地域社会や国際社会に貢献できる。
- 臨床研究者コース** 医療に対する社会的ニーズを理解し、臨床研究、専門的医療の実践を通じて地域社会や国際社会に貢献できる。

医学系研究科看護学専攻[修士課程]

- 1 看護学とその学際領域における深い学識、高い倫理観と課題解決への意欲を持ち、専門的知識・技術、科学的根拠に基づく問題解決能力を有している。
- 2 豊かな人間性を身につけ、人権を尊重し、ニーズのある当事者の立場に立ち支援することができる専門的な実践能力を身につけている。
- 3 論理的思考力を備え、保健・医療・福祉の現場における看護の現象や実践的技術に関する研究能力を有している。
- 4 国内・国外を問わず、高度な実践、研究を通じて、保健・医療・福祉の向上に貢献する学際的チームと協働・連携できる。
- 5 高い倫理観を背景に、医療チームの一員として看護ケアの質の向上を図る意欲と、根拠に基づく分析的・科学的で高度な専門的看護を実践できる卓越した専門的能力を有している。(高度実践コース)

カリキュラム・ポリシー〔教育課程編成・実施の方針〕

医学部 医学科〔学士課程〕

医学科では、医療分野における多様な価値観等に触れるための基礎教育科目、医師のプロフェッショナリズム涵養に結びつく内容を身につけるためのICM(Introduction to Clinical Medicine)科目、より専門的な内容を学び、実践的な力を身につけるための基礎医学科目、臨床医学科目による教育課程を整備し、これらの体系的な履修を促します。また、医学の発展に柔軟に対応するために「選択・必修コース」をICM科目の中に配置し、基礎医学・臨床医学の発展に即した教育課程となるよう努めています。

医学科では、医学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、以下のカリキュラムを編成しています。

1. 倫理観とプロフェッショナリズム(態度)

- 人間性と倫理性を高めるために、人文科学系、社会科学系に関する科目に加えて、行動科学、心理学、社会学、倫理学を含む科目を学年を縦断して実施する。
- 多様な背景をもつ他者を理解・擁護する態度やチーム医療を実践する力を身につけるために、一般の人たちが参画する科目や社会・地域のなかで活動する科目を初年次から配置する。

2. 医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力(知識・態度)

- 基礎教育科目において多くの人文科学系・社会科学系科目を配置し、幅広い教養を身につけるとともに、先端的研究の要素を含む基礎教育科目、基礎医学科目、臨床医学科目の講義・実習を通じて進歩した医学的知識の獲得を促す。
- 能動的学習を実践する演習科目を配置し、自学自習の態度を涵養する。さらに、医学研究特論において、基礎医学研究、臨床医学研究に参加することにより、常に新しい知識を獲得しながら生涯にわたり科学的探究を継続する意欲と素養を育む。

3. 基本的診療能力、全人的な医療の実践(技能)

- コミュニケーション能力を身につけるため、基礎教育の段階から演習を組み込み、患者家族と段階的に接することのできるプログラムを作成する。
- 社会における医療の役割、医療安全を理解するための演習を設け、地域中核病院と連携して、総合的に患者・生活者を診るための臨床実習・地域医療実習を編成する。

4. 問題解決能力、発展的診療能力、研究心(思考・判断)

- 基礎・臨床・社会医学の十分な知識を習得し、医学に存在するさまざまな課題を見つけ出す能力を養う。
- 課題解決型学習を通じて、課題解決に必要な情報を収集して、客観的に分析し、診療に応用する能力を養う。
- 高い研究倫理観と論理的思考能力を養い、新たな知見を生み出す研究マインドを育む。

5. 地域社会・国際社会へ貢献するための能力(意欲・関心)

- 患者と家族を取り巻く社会状況、社会的ニーズを理解するための演習・実習に加え、地域医療施設と連携した臨床実習を展開し、地域医療に貢献できる人材を育成する。
- 地域の医療体制維持のため、最新の情報・科学技術を活用した情報連携や遠隔医療の必要性について理解する。
- 医学研究を通じて国際社会に貢献する方法を学修し、先駆的な研究に自ら積極的に貢献する意欲を養う。

医学部 看護学科[学士課程]

看護学科では、高齢社会の到来、医療の高度化など、新たな医療・看護に対する社会の要請に応え、広い教養基盤を支えとする看護実践力を備えた看護専門職を養成するための看護基礎教育を行っています。また、保健師・助産師になるための選択履修科目をそれぞれ設けています。

教育課程は、一般基礎科目・専門基礎科目・専門科目の3群で構成し、さらに専門科目は「看護の基礎」「特性と看護」「看護の発展と探求」の3段階に配置し、看護学を体系的に学習できるよう配慮してあります。また、4年間を通して学ぶ「地域包括ケア論Ⅰ」～「地域包括ケア論Ⅳ」、3年時に「地域包括ケア実習」を配置しました。

当学科では講義・演習・実習の授業形態を有機的に組み合わせ、段階的かつ系統的な教育によって、看護実践ができる人材の養成を目指しています。

看護学科の学位授与の方針を実現するために、上記の方針を以下のとおり具体化して、カリキュラムを編成しています。

1. 倫理観・プロフェッショナリズムを備えた人間力(姿勢・態度)

- 人間という存在に対する畏敬の念を培うための科目を初年次に配置する。
- 看護職者としてのプロフェッショナリズムを涵養するための科目を、早期から第4学年にわたり進化・深化するように配置する。
- 様々な文化や住民との関わりを通して、多様なコミュニケーションを修得するための科目を配置する。

2. 地域社会・国際社会へ貢献するための能力(意欲・関心)

- 地域特性に応じたニーズを自ら探索し、人々が住み慣れた地域で生活できるよう支援するための科目を配置する。
- 国際的な視野を広げるための科目を配置する。

3. 看護学と保健・医療・福祉の看護関連領域に関する十分な知識と生涯学習能力(知識・態度)

- 生活体である人間を理解するための専門基礎科目を設定し、その履修を必修とする。
- 文化・社会・自然に関する幅広い知識を身につけ多様な価値観に触れる教養科目と、選択科目として個人の希望に合わせて履修できる様々な科目を配置する。
- 初年次から能動的学習を実践する演習・実習科目を配置し、自学自習の態度を育成する。

4. 問題発見から解決を図るための能力(思考・判断)

- 根拠に基づく臨床判断能力を高め、対象者の健康状態に応じた援助を計画できるようになるため、領域別に看護過程を取り入れる。
- 獲得した知識・技術・態度を統合する中で、研究課題を発見し、論理的・創造的に問題を解決する看護研究に関する科目を3年次から配置する。4年次には論文作成と研究発表ができるまでの研究スキルを学修する。
- 保健・医療・福祉における変化に対応するために、情報科学技術を基盤とする情報通信技術(Information and Communication Technology [ICT])や人工知能(Artificial Intelligence [AI])を効果的かつ適切に活用できる科目を配置する。
- さまざまな立場の人々と連携・協働しながら地域の現実問題の解決に取り組む基礎を身につけるための科目を1年次より段階的に配置する。

5. 根拠に基づいた基礎的看護実践能力(技能・表現)

- 看護学科の教育理念である責務(accountability)、権能(authority)、自律(autonomy)を基盤とした看護実践能力を涵養するため、専門科目では第1学年から第4学年まで演習と実習を組み合わせ、実践的な科目を積み重ねて学習する。第4学年では「総合実習」を展開し、これまでに習得した看護学の学習内容を統合し、卒業後求められる看護職者として必要な自律性と看護実践能力を養う。
- 第3学年では臨地実習前の技術の保証として、客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination [OSCE])を実施する。

医学系研究科医学専攻[博士課程]

旭川医科大学大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)では、学生が専攻する科目において先端的な研究を目指す「研究者コース」と臨床研究や臨床試験を推進する能力を涵養する「臨床研究者コース」の2つのコースを設けています。いずれも所属研究室における直接的な個人指導を基本とし、学生は自由かつ学問的な雰囲気の中で研究活動を行います。専門科目では研究の進行に合わせた段階的な特論、特論演習、特論実験実習などを通して、態度、知識、技能、思考・判断能力を体得していきます。研究成果を獲得し、学位論文を書き上げることで、達成感を得るとともに、継続して地域社会・国際社会に貢献する意欲・関心を育みます。上記に平行し、初年次より2年単位で展開される一連の共通講義(先端医学特論、基盤医学特論、医学論文特論)を受講し、学内の研究者との交流を深めながら、医学研究を遂行する上で必要な基礎的・応用的知識を学び、研究者としての倫理的素養を身につけていきます。このような総合的・体系的な大学院教育を通じ、将来の医学を支え、社会からの要請に応える指導的な人材を育成することが本博士課程の目標です。

学生は初めに上記いずれかのコースを選択しますが、研究の進展に応じ、コースの途中変更が可能です。また、研究の遂行に有益と認められる場合には、学内の他の研究室において指導を受けることや、海外を含めた学外の大学院、研究所などで研究を積むこともできます。さらに、初期臨床研修の1年目から大学院に在籍し、研究を早期にスタートさせる制度も採用しています。なお、共通講義については、講義室での通常の講義の他、大学院ホームページ上のeラーニングシステムを充実させ、各自の研究・研修スケジュールに合わせてそのシステムから必要な講義を効率的に受講できるよう配慮しています。以上のように、本博士課程では、学生の主体的な学びを促進するため、可能な限りフレキシブルなカリキュラムを提供するよう努めています。

学修成果の評価は、共通科目、専門科目及び学位論文についてあらかじめ定められた基準に従って行われます。なお、提出された学位論文は、大学院委員会が設置する論文審査委員会による審査及び最終試験により評価されます。

医学系研究科看護学専攻[修士課程]

- 看護学を基盤とした高度専門医療人として健康課題の問題解決に取り組むために必要な保健、医療、福祉に関する専門的知識と高い倫理観、学際的な視野に基づく実践能力および研究手法を修得し、科学的根拠に基づいた実践と研究が展開できるよう体系的にカリキュラムを編成します。
- 修士論文コースでは、共通科目で研究に関する基礎的能力を養い、各領域の特論・演習・特別研究をとおして研究遂行能力を育成します。
- 高度実践コースでは、がん看護学及び高齢者看護学の共通科目・専門科目をとおして高度な専門的看護の実践能力を育成します。
- 成績の評価は、学位授与の方針に基づき各科目に掲げられている履修の目的や目標の達成度をめやすとして評価します。評価は、プレゼンテーションやディスカッション、課題レポート、筆記試験、実技など各科目で設定された方法により行います。
- 科学的根拠に基づく研究方法を用いた研究成果に基づく考察を備え、学位に相応しい修士論文を作成できるよう研究指導計画書に沿った適切な助言と研究指導をします。
- 特別研究及び課題研究では、進捗状況が各年次で達成すべき水準に到達しているか、研究計画発表会等によって確認します。
- 論文審査では、研究及び学修成果が学位に相応しい内容であるかを論文審査基準にもとづき審査します。

アドミッション・ポリシー [入学者受入れ方針]

医学部医学科

医師としての適性ととも地域社会への関心を持ち、自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力を持つ人

求める人物像

1. 医師としての適性

- 豊かな人間性を有し、全ての生命の尊厳を重んじる人
- 社会的規範・道徳に沿って、自らの行動を律することのできる人
- 他者を尊重し、他者を思いやる心を持つ人
- 多様な人々と良好な関係を築くことができる人
- 幅広い教養を身につける努力をしている人
- 最新の知識や技術を身につけるため、学び続ける人

2. 地域社会・国際社会への関心

- 自らの居住地域及びその住民に対して関心と愛着を持つ人
- 国際的視野を持ち、社会全体に貢献する意志を有する人

3. 自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力

- 直面する問題に対し、自らが持つ知識・技能を論理的に応用することで、的確に課題を発見し、解決しようと行動できる人

入学者に求める資質等

関心・意欲・態度

将来医師として社会に貢献する高い志を持ち、他者に配慮し、自らを律して行動できる人

知識・技能

医学を学ぶために必要な基礎学力を有し、課題発見能力・応用力を備えた人

思考力・判断力・表現力

課題を発見し解決するための基礎となる教養と論理的な思考力・判断力を備え、高度なコミュニケーション能力と文章による表現力を持つ人

主体性・多様性・協働性

高等学校等での総合的な探究の時間や課外活動などを通じて周囲の人と良好な関係を築くことができる協働性を備え、多様な人と協働するための自己分析能力を持ち、主体的な活動の経験を有する人

高等学校等までの各教科において、以下の能力を身につけていることを望みます。

国 語

物事を的確に捉え、良好な人間関係を形成するために、日本語を正確に理解し、自らの考えを適切に表現するとともに他者の考えを正しく理解できること

地 理 歴 史 ・ 公 民

一般社会において主体的に生きるために、良識ある公民として行動できること

数 学

基礎的知識の理解と習得に加え、身の回りの事象を数学的に考察できるとともに、数学的論拠に基づいて判断できること

理 科

身の回りの事象を自らの知識に基づいて科学的に判断するために、広く自然科学全般について深く洞察できること

英 語

将来国際レベルで学術情報の収集・発信を行うことができるよう、英語の内容を正確に理解し、身近な話題や興味関心のあるテーマについて自らの考えを適切に表現できること

情 報

情報と情報技術を活用するための技能を習得するとともに、様々な事象に対する問題発見及び解決に向けて、情報技術を適切に活用できること

医学部看護学科

看護職者としての適性とともに関心を持ち、自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力を持つ人

求める人物像

1. 看護職者としての適性

- 将来看護職者として、社会に貢献しようとする高い志をもつ人
- 豊かな人間性を有し、全ての生命の大切さを重んじる人
- 社会的規範・道徳に沿って、自らの行動を律することのできる人
- 他者を尊重し、他者を思いやる心をもつ人
- 多様な人々と良好な関係を築くことができる人
- 基礎学力を有し、幅広い教養を身につけている人
- 最新の知識や技術を身につけるため、学び続ける人
- 自分の思考や行動を客観的に捉え、振り返ることができる人

2. 地域社会・国際社会への関心

- 北海道及びそこで暮らす人々への関心と愛着をもつ人
- 国際的視野を持ち、世界や日本の課題に関心が高い人

3. 自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力

- 課題を発見し解決するための基礎となる論理的な思考力・判断力を備えた人
- 課題を解決するため自発的に考え、行動する人

入学者に求める資質等

関心・意欲・態度

- 将来看護職者として社会に貢献する高い志を持ち、他者に配慮し、自らを律して行動できる人
- 地域社会とそこで暮らす人々への関心が高い人

知識・技能

看護学を学ぶために必要な基礎学力を有し、課題発見能力・応用力を備えた人

思考力・判断力・表現力

課題を発見し解決するための基礎となる教養と論理的な思考力・判断力を備え、コミュニケーション能力と文章による表現力を持つ人

主体性・多様性・協働性

高等学校等での総合的な探究の時間や課外活動などを通じて周囲の人と良好な関係を築くことができる協働性を備え、多様な人と協働するための自己分析能力や、主体的な活動の経験を有する人

高等学校等までの各教科において、以下の能力を身につけていることを望みます。

国語

物事を的確に捉え、良好な人間関係を形成するために、日本語を正確に理解し、自らの考えを適切に表現するとともに他者の考えを正しく理解できること

地理歴史・公民

一般社会において主体的に生きるために、良識ある公民として行動できること

数学

基礎的知識の理解と習得に加え、身の回りの事象を数学的に考察できるとともに、数学的論拠に基づいて判断できること

理科

身の回りの事象を自らの知識に基づいて科学的に判断するために、広く自然科学全般について深く洞察できること

英語

将来国際レベルで学術情報の収集・発信を行うことができるよう、英語の内容を正確に理解し、身近な話題や興味関心のあるテーマについて自らの考えを適切に表現できること

情報

情報と情報技術を活用するための技能を習得するとともに、様々な事象に対する問題発見及び解決に向けて、情報技術を適切に活用できること

入学者選抜の基本方針

各選抜区分における選抜方法及び主要評価項目は以下のとおりです。

医学科

選抜区分	選抜方法	主要評価項目				特記事項
		知識・技能	思考力 判断力 表現力	関心・意欲、 態度	主体性 多様性 協働性	
一般選抜 (前期日程)	大学入学共通テスト	●	●			[知識・技能][思考力・判断力・表現力] を備えた者を重視して選抜する。
	教科・科目に係る個別テスト	●	●			
	面接試験及び調査書等		●	●	●	
総合型選抜 (北海道特別選抜)	大学入学共通テスト	●	●			学力等とともに、医学の分野で北海道の 医療及び社会に貢献する強い意欲を持っ ている者を選抜する。
	課題論文試験	●	●			
	面接試験及び調査書等		●	●	●	
学校推薦型選抜 (道北・道東特別選抜)	大学入学共通テスト	●	●			学力等とともに、北海道の上川中部を除く 道北、道東並びに北空知及び中空知地 域における医療に貢献する強い意欲があ る者を選抜する。
	課題論文試験	●	●			
	面接試験及び調査書等		●	●	●	
私費外国人 留学生選抜	教科・科目に係る個別テスト	●	●			出身学校が発行する成績証明書の内容、 独立行政法人日本学生支援機構が実施す る「日本留学試験」の成績を総合的に評価 する。
	面接試験			●	●	
第2年次編入学	教科・科目に係る個別テスト	●	●			大学等での学修及び社会経験により身に つけた資質等を評価する。学力等ととも に、北海道の地域医療を理解し、北海道の 医療に貢献する強い意欲のある者を選抜 する。
	面接試験			●	●	

看護学科

選抜区分	選抜方法	主要評価項目				特記事項
		知識・技能	思考力 判断力 表現力	関心・意欲、 態度	主体性 多様性 協働性	
一般選抜 (前期日程)	大学入学共通テスト	●	●			[知識・技能][思考力・判断力・表現力] を備えた者を重視して選抜する。
	小論文試験	●	●			
	集団討論及び調査書等		●	●	●	
一般選抜 (後期日程)	大学入学共通テスト	●	●			[知識・技能][思考力・判断力・表現力] を備えた者を重視して選抜する。
	集団討論、面接試験及 び調査書等		●	●	●	
学校推薦型選抜	集団討論、面接試験及 び調査書等	●	●	●	●	能力及び適性等を総合的に評価すると ともに、看護学に関する学修意欲が特に強 く、将来は看護の専門分野における実務・ 指導に携わることを決意している者を選 抜する。
私費外国人留学生 選抜	教科・科目に係る個別テスト	●	●			出身学校が発行する成績証明書の内容、 独立行政法人日本学生支援機構が実施す る「日本留学試験」の成績を総合的に評価 する。
	面接試験			●	●	

医学系研究科医学専攻[博士課程]

求める学生像

- 1 知的好奇心を持ち、生命科学、社会医学、臨床医学の研究を志す人
- 2 医学・医療を通して、社会へ貢献することに情熱を持つ人
- 3 研究成果を世界に向けて発信し、世界と共有する意欲のある人
- 4 自ら課題を見つけ、研究を遂行するために必要な学問的素養と論理的能力を備えた人
- 5 自ら必要な情報を収集し、論文を作成し、発表するために必要な言語的能力を備えた人
- 6 コミュニケーション能力を備え、周囲の人々と相互的な協力関係を築ける人

入学者選抜の基本方針

「求める学生像」で示す能力等を多面的に評価するため、学力検査の成績、面接の結果及び成績証明書の内容を総合的に審査して選抜します。

学力検査においては基礎学力を、面接においては医療人・研究者としての適性と向上心を評価します。

医学系研究科看護学専攻[修士課程]

求める学生像

- 1 高い問題意識と倫理観を備え、論理的思考力と科学的根拠に基づき、問題解決にとり組む意欲と探究心のある人
- 2 志望する専門領域の基礎的知識を身につけている人
- 3 豊かな人間性を備え、保健・医療・福祉の向上に貢献するため教育・研究・看護実践で指導的役割を担う意志のある人
- 4 研究や問題解決に主体的に取り組み、学際的に協働するため必要なコミュニケーション能力を備えている人
- 5 専門看護師として、看護実践・研究に指導的役割を担う意志のある人（高度実践コース）

入学者選抜の基本方針

「求める学生像」で示す能力等を多面的に評価するため、小論文、口述試験（志望する専門領域に関する事項）の結果及び成績証明書の内容を総合的に審査して選抜します。

小論文においては、理解力、論理的思考力、文章表現力を、口述試験においては探求心、研究への意欲等を評価します。



旭川市「多様な働き方推進事業者」として 最上位の「プラチナ認定」を受けました

本学は令和7年度、誰もが働きやすく活躍できる職場環境づくりに積極的に取り組む「多様な働き方推進事業者」として旭川市から認定され、これまでのゴールド認定から最上位であるプラチナ認定へとランクアップしました。「復職・子育て・介護支援センター（通称：二輪草センター）」は、平成19年に設立され、「全職員・全学生にとって、より働きやすく、学びやすい環境を実現すること」を使命として活動してきました。設立以来19年間にわたり、この使命の実現に向けてさまざまな取り組みを継続してきた成果が、このたびの「プラチナ認定」という形で結実したものと考えています。今後も、誰もが安心して働き、学ぶことのできる環境づくりをさらに推進するため、その中核を担う部門として一層尽力してまいります。

旭川医科大学開学50周年記念基金 福利施設食堂等リニューアル事業が完成

開学50周年記念事業の一環として、福利施設食堂等のリニューアルを実施し、このたび整備が完了しました。本事業は、総額8,530万円にのぼるご寄附を賜り実現したものであり、改めて深く御礼申し上げます。

リニューアルにより、福利施設は明るく洗練された空間へと生まれ変わり、学生・教職員にとって快適で利用しやすい環境が整備されました。学生食堂に加え、多目的室や保健管理センターなども一体的に整備したことで、より充実した学修・生活環境を整えることができました。

今後は、学生・教職員をはじめ多くの利用者に親しまれる場として活用を進め、キャンパス環境のさらなる向上に努めてまいります。



リニューアルされた学生食堂

公立大学法人横浜市立大学と包括連携協定を締結

旭川医科大学と横浜市立大学は、教育・研究その他の分野において連携を深め、双方の大学の発展的な教育と研究の推進に向けて互いに協力することにより、地域の発展と人材の育成に寄与することを目的とする包括連携協定を締結しました。

今後は、両大学が有する教育・研究資源や地域医療の知見を相互に活かし、幅広い分野において連携を進め、地域社会への貢献とともに、我が国の学術・医療の発展、人材育成に寄与してまいります。

北海道社会貢献賞(国際交流・協力功労者)受賞 吉田貴彦名誉教授

本学が長年取り組んできたJICA課題別研修「アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政」をはじめとする活動が評価され、中心的な役割を担ってきた吉田貴彦名誉教授が、令和7年度北海道社会貢献賞(国際交流・協力功労者)を受賞しました。

本賞は、道内における国際交流や国際協力に関する道民の理解を促進し、こうした取組の裾野を拡大するため、当該活動の功績が顕著な団体や個人に対し表彰をするものです。

吉田名誉教授は、在職中の平成20年より同研修を通じてアフリカ29か国の保健医療従事者に対し、地域保健行政の向上に資する研修の実施に尽力されました。また、帰国研修員とのネットワーク維持にも注力し、現地訪問によるフォローアップやシンポジウム開催などにより、アフリカ地域における保健行政分野の人材育成及び国際協力を推進したことも評価され、今回の受賞に至りました。



表彰式



フォローアップ活動(タンザニア・プロコバ郡)

北海道の地域医療ニーズに応える医師育成の取り組み 【地域共生医育センター】

地域共生医育センターでは、地域の医療ニーズに適合するマルチタスク型地域医療医の育成を目指し、教育拠点の整備に取り組んでいます。その取組の一環として、北海道の地域医療において特に求められる総合的な診療能力を4つの軸で整理し、それぞれの学びを深めることができる医療機関において、令和7年7月および令和8年3月に医学科学生を対象とした臨床実習を実施しました。

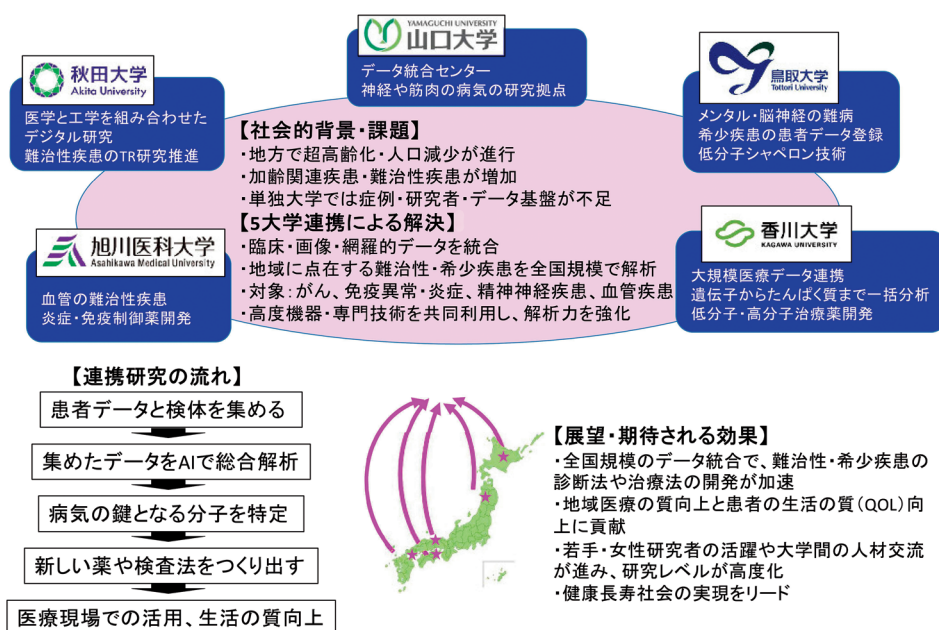
実習は、病院総合診療を学ぶ清水赤十字病院、家庭医療・訪問診療型総合診療を学ぶ更別村国民健康保険診療所、離島・僻地医療型総合診療を学ぶ利尻島国保中央病院、礼文町国民健康保険船泊診療所、救急・災害医療型総合診療を学ぶ名寄市立総合病院で行われ、学生は地域医療の現場を体験しながら、地域に根ざした多様な医療のあり方や、地域医療が担う役割について理解を深めました。実習の成果は学内の報告会で発表されました。



超高齢・少子フロンティアを切り拓く5大学包括連携協定締結

令和7年8月1日、旭川医科大学は秋田大学、山口大学、鳥取大学、香川大学とともに、包括連携協定「Alliance5」を締結しました。本協定は、少子高齢化や人口減少が進む地域に立地する国立大学医学部が連携し、共通する医療課題の解決を図るものです。特に、超高齢社会における医療の質向上を目指し、微小環境や免疫異常に起因する難治性・希少疾患の研究を全国規模で推進します。臨床データの共有や研究基盤の統合を進め、創薬や医療技術の高度化につなげるとともに、人材育成や大学間交流を促進します。各大学の地域特性を活かした連携により、新たな知見の創出と社会実装を通じて、地域医療の発展に貢献していきます。

高齢化が最も進む地域の国立5大学が手を組む 全国規模の医療研究チーム「Alliance 5 (アライアンスファイブ)」



「周術期麻酔管理領域」修了者の誕生と、今後の特定行為推進に向けて

令和7年9月、第4期研修を終え、当院では初となる「周術期麻酔管理領域」の特定行為研修を修了した看護師2名が誕生しました。周術期麻酔管理領域の修了者は、麻酔科医師と連携し、手順書に基づいた麻酔中の呼吸管理や輸液管理などの特定行為を実践します。

今回修了した2名は、それぞれ手術部ナースステーションと光学医療診療部・放射線部ナースステーションに所属しており、各々の専門性を活かした活動を開始しています。手術部所属の修了者は、手術中の特定行為の実践に加えて、病棟への訪問も行っています。術後の訪問では硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与量の調整を行い、疼痛の緩和等を担っています。修了者は「特定行為の実践には緊張感もありますが、患者さんの回復に直接寄り添えることに大きなやりがいを感じています」と語っていました。

令和8年10月開始の第6期研修からは、創傷管理関連の区分を新設するとともに、既に受講した科目が免除となる履修免除を開始します。これまでの受講者には宗谷管内や十勝管内で勤務する看護師がおり、地域のニーズに応え、地域医療、看護に貢献する研修運営に努めてまいります。



医薬基盤研究所と本学の合同シンポジウムを開催

令和7年12月12日・13日、同年4月締結の連携協定に基づき「第1回がんプロ／医薬基盤研連携大学院シンポジウム」を開催しました。国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所7名、本学13名の計20名が参加し、最新の研究データに関する発表が行われ、今後の連携について活発な議論が行われました。本学は大型実験機器の老朽化により研究データ取得が難しく、同研究所では解析機器が充実しているものの、臨床サンプルの収集に課題があることを共有しました。今後は本学が臨床サンプル収集、同研究所が高度な解析を担う形で連携を強化する方針を確認し、複数の共同研究も新たに立案されました。

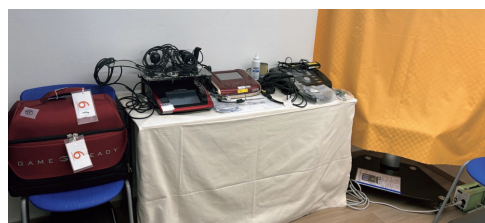
本シンポジウムは今後、参加者を広く募り規模を拡大して継続的に開催する予定です。

ミラノ・コルティナ2026パラリンピックにおけるスポーツ医科学支援活動を実施

令和8年3月1日から15日にかけて開催されたミラノ・コルティナ2026パラリンピックにおいて、本学理学療法士が日本スポーツ振興センター(JSC)のハイパフォーマンス・サポート事業の外部協力者として、大会支援活動に参加しました。

大会期間中はコルティナを拠点に、選手やコーチ、サポートスタッフを対象に、物理療法や運動療法を活用したコンディショニングを行いました。各競技団体の方針や選手個々の調整プロセスを尊重し、各方面との連携を重視して対応する必要がありました。また、限られた人的資源の中で、準備や環境整備を含む多岐にわたる業務を多職種と連携して遂行し、国際大会における実践的な知見を深めました。

本活動を通じて得られた国際大会における経験や知見を、本学における教育・研究活動に還元するとともに、地域におけるスポーツの質向上や医学的見地を持ったスポーツ指導者・支援人材の育成に活用していきたいと考えます。



今大会コルティナ拠点での
コンディショニングサポートエリアの様子

海外医療支援活動の実施について(令和8年ベトナム口唇口蓋裂診療)

令和8年3月21日から29日にかけて、歯科口腔外科学講座を中心とする診療隊6名(医学生2名を含む)がベトナム・ビンロン省を訪問し、グエンディンチュー病院にて口唇口蓋裂患者を対象とした無償での医療支援活動を実施しました。この活動は、日本口唇口蓋裂協会が行う短期滞在型医療援助活動に同行する形で実施したもので、国内外の大学や医療機関から約60名の多職種チームが参加しました。

令和7年6月のベトナム国会による全国の省・中央直轄市の行政区分再編に伴い、旧ベンチェ省、旧チャーヴィン省、旧ビンロン省の全てがビンロン省の管轄に変わりました。現地では術前スクリーニングとして49名の診察を行い、そのうち27名の患者さんに手術を行いました。昨年と比較するとスクリーニング患者数・手術症例数ともに減少しており、行政区分再編に伴う受け入れ体制の変化や周知の遅れなどが一因として考えられます。

手術症例は、生後2.5か月から55歳までと年齢層が幅広く、特に瘻孔閉鎖術や口唇修正術などの二次手術が22例と8割程度を占めました。日本では、口蓋形成術は通常、体重10kg以上、年齢1歳6か月頃が目安とされていますが、今回は20歳以上の症例が7例あり、最高齢は55歳でした。経済的な事情や地理的制約により、適切な時期に治療機会を得られなかった患者さんが散見され、現地の医療体制を補いながら人材育成に貢献することの重要性を再確認する機会となりました。

本学は今後も、地域及び国際社会における医療の向上と発展に努めてまいります。



集合写真



手術の様子



旭川医科大学からの診療隊

高大病連携によるふるさと医療人育成の取組

本学では、高校生の段階から「医療人としての職業観」の自覚を促し、将来、地域医療に従事する医療職者、すなわち「ふるさと医療人」を育むことを目的として、平成20年度から、高校・大学・医療機関が連携し、高校生の学びを支援する「ふるさと医療人育成プログラム」を実施しています。

本取組は、平成20年文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」に採択され、3年間の補助期間終了後も大学独自の取組として継続しています。

その取組の一環として、令和8年3月29日(日)、北海道教育委員会の後援により、旭川市では2回目となる「高校生による医療体験活動報告会・高校生による地域医療討論会」を開催しました。

「高校生による医療体験活動報告会・高校生による地域医療討論会」は、コロナ禍前は札幌で開催していましたが、令和2年度から令和5年度はリモート形式で実施しました。令和6年度からは対面開催を再開し、対面とリモートを組み合わせたハイブリッド形式で実施しています。

令和7年度で、高校生による医療体験活動報告会は16回目、高校生による地域医療討論会は15回目の開催となり、これまで多くの高校生が参加してきました。

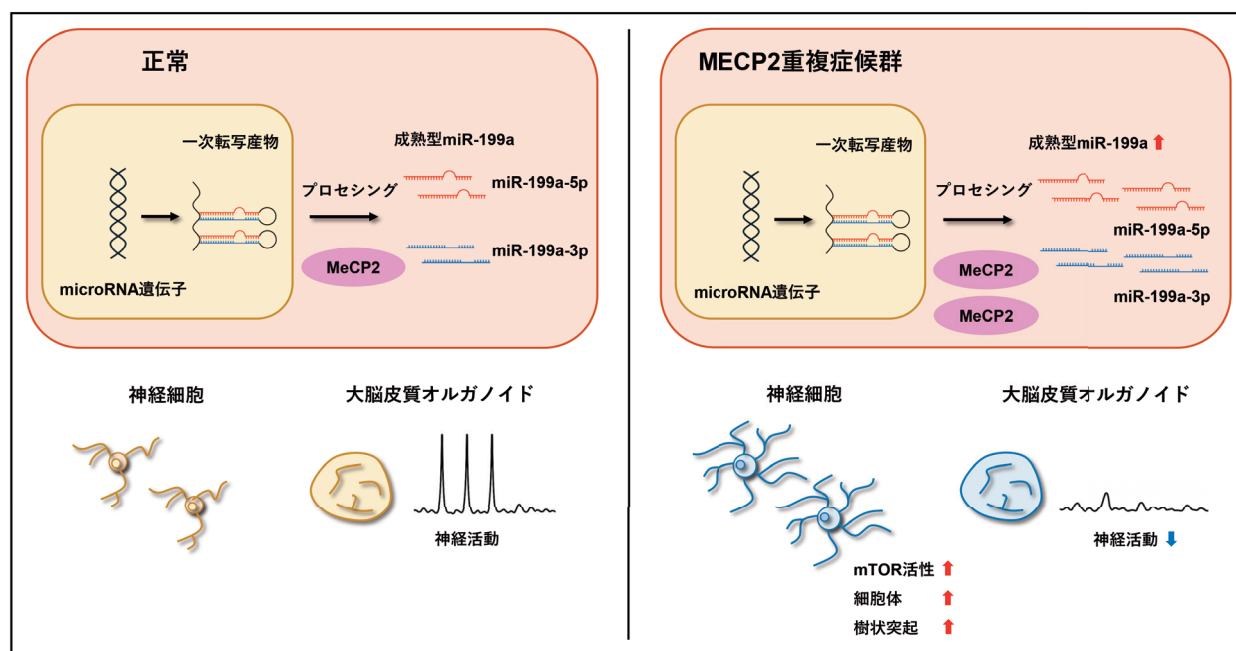
参加した高校生の皆さんが、将来、「ふるさと医療人」として地域医療に携わってくれることを期待しています。

本学では未来の医療につながる研究成果を様々な分野の講座から発信しています。ここでは、その一部をご紹介します。

MECP2重複症候群におけるmiR-199aを介した神経機能異常の分子機構

旭川医科大学小児科学講座 助教 赤羽 裕一

MECP2重複症候群(MDS)は、MECP2遺伝子のコピー数増加により生じる重篤な神経発達障害であり、知的障害やてんかんなどを特徴とします。MeCP2は神経機能を制御する重要なエピジェネティック因子ですが、コピー数異常に起因する分子病態は十分には解明されていません。本研究では、マウスモデルおよび患者iPS細胞由来神経細胞を用いて、microRNAの一種であるmiR-199aがMeCP2の下流で発現上昇していることを見出しました。miR-199aはmTORシグナル経路などを介して細胞成長を制御しており、その機能を抑制することで神経細胞の形態異常の改善が認められました。さらに、患者iPS細胞由来の脳皮質オルガノイドにおいては神経活動の異常が観察され、miR-199aの抑制によりこれらの異常の部分的な改善が認められました。MeCP2の発現量は厳密な制御が必要であり、これを直接標的とする治療には困難が伴います。しかし、下流分子に着目するアプローチは新たな治療戦略の一つになる可能性があります。本研究は、MDSの分子病態と治療研究に新たな知見を提供しました。



遺伝子解析技術「HiDy-CE」を開発

旭川医科大学 客員教授 水上 裕輔

先進ゲノム地域医療講座 技能補佐員 玉村 伸恵

旭川医科大学の水上裕輔客員教授（現所属：医薬基盤研究所 難病・免疫ゲノム研究センター）と株式会社日立ハイテックは大学内に共同研究講座「先進ゲノム地域医療講座」を2024年7月に開設し、がんゲノム医療に関する共同研究を進めてきました。この度、研究成果の一環として膵がんの早期発見につながる新しい遺伝子解析技術「HiDy-CE」を開発しました。

膵がんは、初期の段階ではほとんど症状がなく、体の奥深くにできるため画像検査でも見つけにくいことから、発見されたときには進行している場合が少なくありません。そのため、より早い段階で膵がんを見つける技術の開発が求められています。

膵がんでは「KRAS」という遺伝子に異常が生じることが多く、この変異はがんのごく初期から現れることが知られています。しかし、初期のがんでは変異を持つDNAの量が非常に少ないため、従来の検査法では見逃されることがありました。

今回開発したHiDy-CEは、DNAを解析する装置の性能を向上させることで、多数の正常なDNAに埋もれたわずかな変異DNAを高感度に検出できる技術です（図1）。研究では、膵がんによく見られるKRAS遺伝子変異を、全体の0.5%程度というごくわずかな頻度でも検出できることが確認されました。

さらに、膵腫瘍が疑われる患者34人の生検組織を用いて性能を評価したところ、高精度な遺伝子検査として知られるデジタルPCRや次世代シーケンサーと同等の結果が得られました（図2）。

HiDy-CEは、高感度な遺伝子解析を簡便かつ低コストで行うことを可能にする技術であり、臨床現場での活用が見込まれています。今後、検出できる遺伝子変異の種類を増やすことで、膵がんのより早期の発見や、一人ひとりの患者に適した治療法の選択に役立つことが期待されます。

なお、本研究成果をまとめた論文は、玉村伸恵氏の学位論文として公開されています。

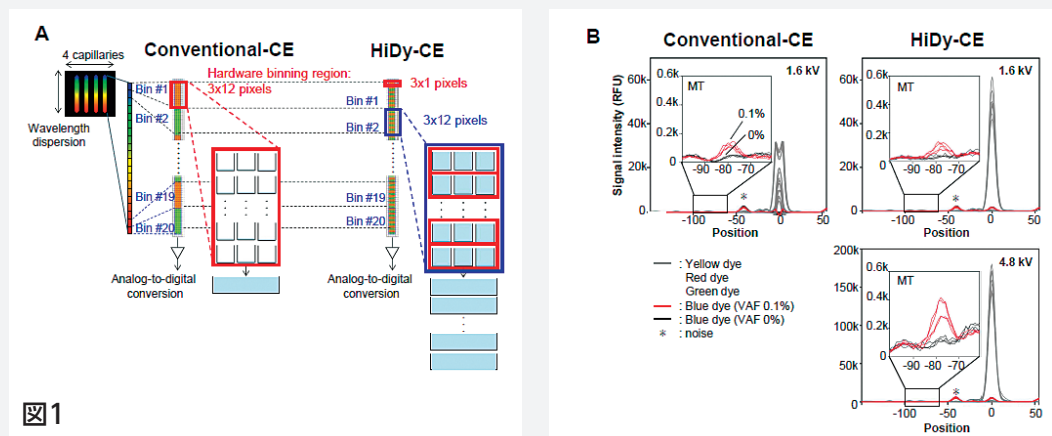


図1

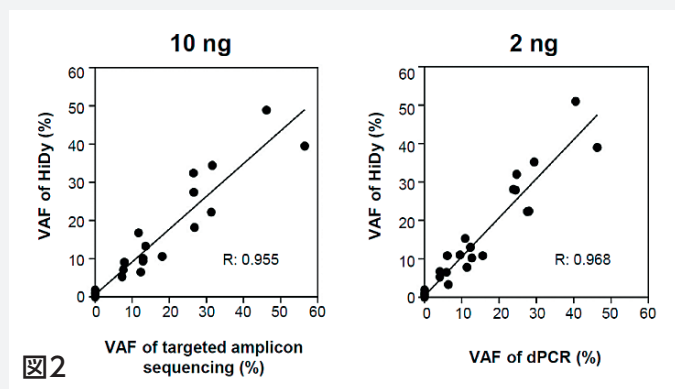


図2

図1. 従来のDNAシーケンサーと新規開発したHiDy-CEの比較

イメージセンサー上の検出単位（ビニング領域）を小さくし、その数を増やすことで、従来よりも広いダイナミックレンジを有するDNAシーケンサー「HiDy-CE」を開発しました。本技術により、信号の飽和のリスクが下がり、より低頻度の遺伝子変異が検出できるようになりました。

図2. デジタルPCR、ターゲットシーケンスとの比較

新規開発したHiDy-CEでは、既存技術であるデジタルPCRやターゲットシーケンス（いわゆる次世代シーケンサー）と同等の結果を得ることができました。

「第63回日本人工臓器学会大会「萌芽研究ポスターセッション」 優秀賞受賞テーマ:患者の成長による血管径変化に対応する 自己組織心臓弁バイオバルブの開発」

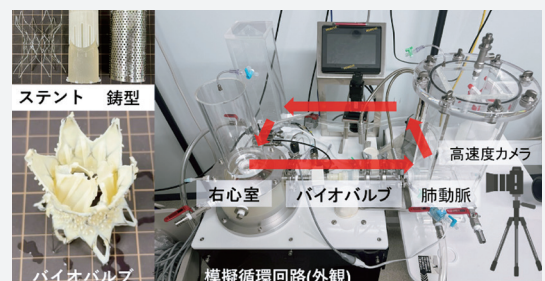
令和7年11月21日、第63回日本人工臓器学会大会において、本学先進医工学研究センターで研究を行う医学科第6学年 米田有希さんが「萌芽研究ポスターセッション 優秀賞」を受賞しました。

本研究は、旭川医科大学先進医工学研究センターの井上雄介准教授、寺澤武講師、佐藤康史助教、武輪能明教授の指導下に行われました。

心臓弁膜疾患は高齢者から先天性心疾患の小児まで生じますが、弁置換術に使う人工心臓弁はサイズが変わらないので現在成長が必要な小児には使用できず、姑息的な方法で治療しています。そのため、年を取るにつれて心臓弁の機能が低下し心不全症状が強くなり、生命の危険や日常生活の制限が大きくなり再手術が必要になります。

先進医工学研究センターで開発している自己組織からなるバイオバルブは、大動物実験で弁の周囲の血管部分が大きくなることとわかり、小児に使える人工弁として大いに臨床応用が期待されています。しかし弁葉部分(弁の開閉する場所)が完全に成長できるとは限らないので、血管部分が大きくなったときに弁葉のデザインの工夫で成長に対応できるか調べ、ある程度そうなることが示されました。

米田有希さんは医学生(5-6年生)の間に、本研究に参加し今回の成果を上げられました。今後も興味、意欲のある学生を積極的に受け入れて、医療に貢献できる研究を自ら行う、というマインドを持つ医師が育て欲しいとセンターでは考えています。



日本細菌学会北海道支部会賞

最優秀賞：リステリア菌によるインフラマソーム活性化と宿主防御における Btk の役割

優 秀 賞：GAS感染におけるインフラマソームの防御的役割と新規活性化機構の解明

第89回日本細菌学会北海道支部学術総会において、日本細菌学会北海道支部会賞(最優秀賞1件、優秀賞2件)が選出され、感染症学講座(微生物学分野)山内肇助教と医学科第5学年永吉 智紀さんがそれぞれ最優秀賞と優秀賞を受賞しました。

「リステリア菌によるインフラマソーム活性化と宿主防御における Btk の役割」

感染症学講座(微生物学分野) 山内 肇 助教

私たちの体では、細菌が細胞内に侵入すると、「インフラマソーム」と呼ばれる免疫の警報装置が作動し、炎症反応を起こします。この反応は本来、感染から体を守るための機構ですが、過度に活性化されると、重い感染症や組織障害に関与することがあります。本研究では、食中毒の原因となり、妊娠中の方や免疫機能が低下した方では髄膜炎や敗血症などの重い感染症を引き起こすリステリア菌に注目しました。本研究では、免疫細胞内のBtkというタンパク質が、リステリア菌によるインフラマソームの活性化に関与することを明らかにしました。今後は、Btkを介した反応が感染防御と病気の進行にどのような影響を与えるかを詳しく調べ、既存の抗菌薬とは異なる仕組みで重症化を抑える治療戦略につなげることを目指します。

「GAS感染におけるインフラマソームの防御的役割と新規活性化機構の解明」

医学科第5学年 永吉 智紀

A群溶血性レンサ球菌(GAS)は、急速に重症化する劇症型溶血性レンサ球菌感染症を引き起こすことがあり、この重症感染症は一般に「人食いバクテリア」による感染症として知られています。本研究では、GAS感染に対して、免疫の警報装置であるインフラマソームが果たす役割を調べました。その結果、この装置の作動によって放出されるIL-1 β という炎症性物質が、体内の菌を抑え、感染から体を守るために重要であることを明らかにしました。さらに、ASCというタンパク質の特定部位が「リン酸化」と呼ばれる化学的変化を受けることで、インフラマソームが作動する新たな仕組みを見いだしました。マウスで感染防御への効果を確かめ、培養した免疫細胞でその分子機構まで追究した点に、本研究の独自性があります。今後は、ASCの変化を引き起こす経路を詳しく調べ、GAS感染症の重症化機構の解明と、体に必要な免疫反応を保ちながら重症化を抑える治療戦略の開発につなげます。

沿革

昭和47年	7月 1日	旭川医科大学創設準備室設置
昭和48年	9月29日	旭川医科大学設置(旭川医科大学創設準備室廃止)
	11月 5日	第1回(昭和48年度)入学式挙行
	11月20日	開学記念祝典挙行
昭和50年	4月 1日	附属病院創設準備室設置
昭和51年	5月10日	医学部附属病院設置(附属病院創設準備室廃止)
	10月26日	医学部附属病院開院記念祝典挙行
	11月 1日	医学部附属病院開院
昭和54年	3月24日	第1回(昭和53年度)卒業証書授与式挙行
	4月 1日	大学院医学研究科設置
昭和58年	3月25日	第1回(昭和57年度)学位記授与式挙行
	6月15日	開学10周年記念式典挙行
平成 5年	11月 5日	開学20周年記念式典挙行
平成 8年	4月 1日	医学部看護学科設置
平成11年	3月10日	学章を制定
平成12年	4月 1日	大学院医学系研究科に修士課程看護学専攻を設置
平成14年	4月 1日	看護学科3大講座制を1大講座制に改組
平成15年	11月 5日	開学30周年記念式典挙行
平成16年	4月 1日	国立大学法人旭川医科大学発足
平成17年	11月 1日	医学部附属病院を旭川医科大学病院に変更
平成18年	4月 1日	医学科基礎医学1大講座及び12講座を5大講座及び4講座に、臨床医学19講座を2大講座及び14講座に再編
平成25年	11月 5日	開学40周年記念式典挙行
令和 4年	3月 5日	看護学科開設25周年記念式典挙行
令和 5年	4月 1日	教育研究推進センターを 研究推進本部と研究技術支援センターに改組
		国際交流推進センターを設置
	8月 9日	形成・再建外科学講座開設
	10月 1日	内科学講座3分野6部門を5分野へ改組
	11月 4日	開学50周年記念式典挙行
令和 6年	4月 1日	地域共生医育統合センターを地域共生医育センターへ改称
令和 7年	4月 1日	研究技術支援センターを3部門へ改組



旭川医科大学創設準備室設置



旭川医科大学設置



第1回(48年度)入学式挙行

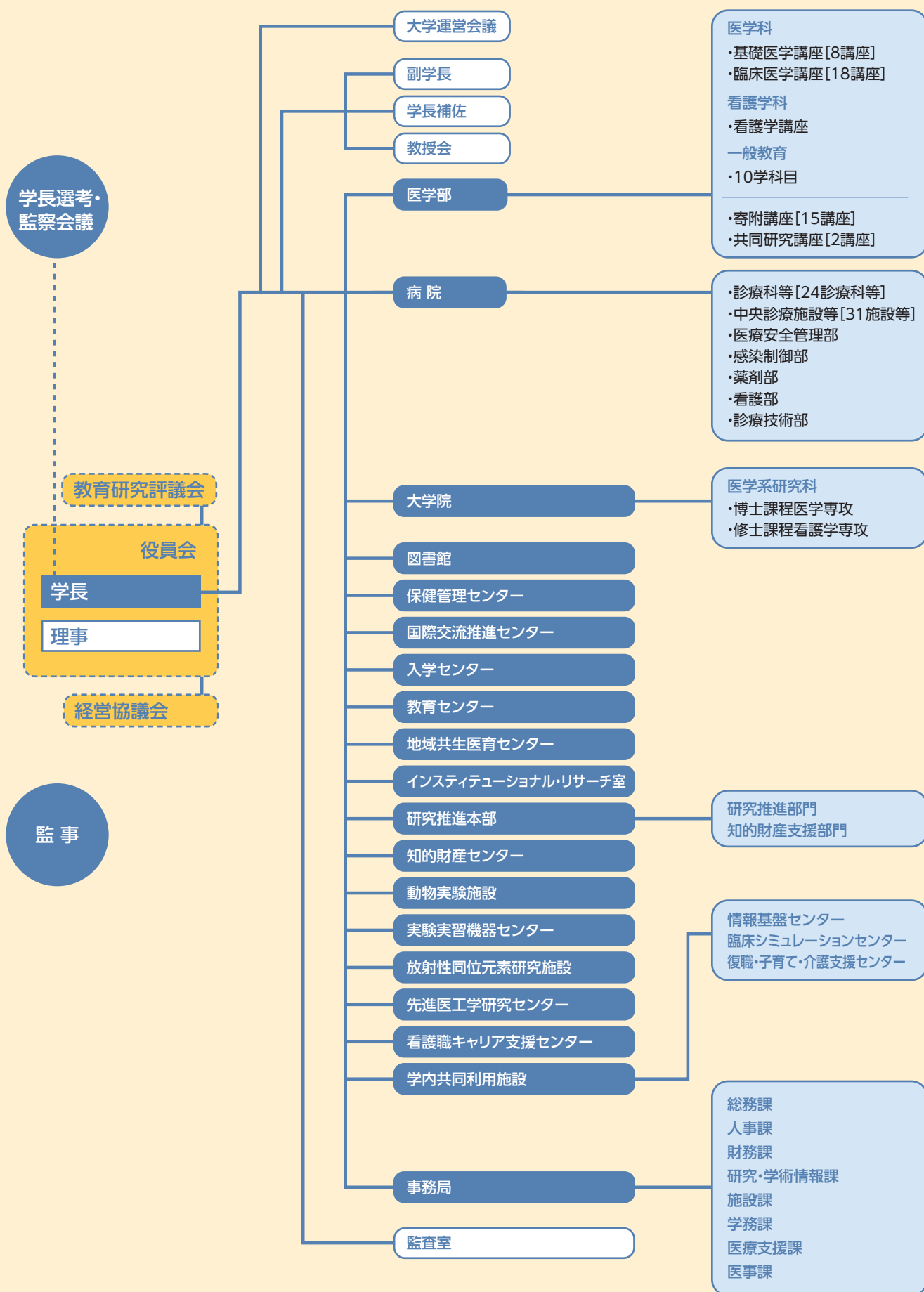


医学部附属病院開院



開学50周年記念式典挙行

組織機構図



役職員・歴代学長等

国立大学法人旭川医科大学

役員

令和8年7月1日現在

学長	西川 祐司 NISHIKAWA Yuji
理事、副学長 入試、教育、人事・組織担当	奥村 利勝 OKUMURA Toshikatsu
理事、副学長 医療、評価、国際交流担当	東 信良 AZUMA Nobuyoshi
理事 社会連携担当	辻 泰弘 TSUJI Yasuhiro
理事 地域医療担当	佐古 和廣 SAKO Kazuhiro
監事	吉崎 敏樹 YOSHIZAKI Toshiki
	村木 一行 MURAKI Kazuyuki

経営協議会委員

学長	西川 祐司 NISHIKAWA Yuji
理事	奥村 利勝 OKUMURA Toshikatsu
理事	東 信良 AZUMA Nobuyoshi
理事	辻 泰弘 TSUJI Yasuhiro
副学長(財務担当)	梶原 修 KAJIWARA Osamu
旭川市副市長	熊谷 好規 KUMAGAI Yoshinori
旭川信用金庫会長	原田 直彦 HARADA Naohiko
江別市立病院事業管理者	長谷部 直幸 HASEBE Naoyuki
NPO法人旭川文学資料友の会副会長	白井 恵理子 SHIRAI Eriko
学校法人稲積学園 北部保健福祉専門学校学校長	林 要喜知 HAYASHI Youkichi
旭川市立大学学長	三上 隆 MIKAMI Takashi

教育研究評議会評議員

学長	西川 祐司 NISHIKAWA Yuji
理事	奥村 利勝 OKUMURA Toshikatsu
理事	東 信良 AZUMA Nobuyoshi
理事	辻 泰弘 TSUJI Yasuhiro
理事	佐古 和廣 SAKO Kazuhiro
副学長	川辺 淳一 KAWABE Junichi

副学長	藤谷 幹浩 FUJIYA Mikihiro
副学長	牧野 雄一 MAKINO Yuichi
副学長	西條 泰明 SAIJO Yasuaki
副学長	梶原 修 KAJIWARA Osamu
図書館長	藤谷 幹浩 FUJIYA Mikihiro
医学部医学科長	奥村 利勝 OKUMURA Toshikatsu
医学部看護学科長	升田 由美子 MASUDA Yumiko
基礎医学講座教授	入部 玄太郎 IRIBE Gentaro
臨床医学講座教授	紙谷 寛之 KAMIYA Hiroyuki
看護学科教授	長谷川 博亮 HASEGAWA Hiroaki
一般教育教授	工藤 直志 KUDO Tadashi
センター等教授	武輪 能明 TAKEWA Yoshiaki
事務局長	梶原 修 KAJIWARA Osamu

旭川医科大学

学長	西川 祐司 NISHIKAWA Yuji
副学長 入試、教育、人事・組織担当	奥村 利勝 OKUMURA Toshikatsu
副学長 医療、評価、国際交流担当	東 信良 AZUMA Nobuyoshi
副学長 研究担当	川辺 淳一 KAWABE Junichi
副学長 産学連携担当	藤谷 幹浩 FUJIYA Mikihiro
副学長 地域医療育成担当	牧野 雄一 MAKINO Yuichi
副学長 広報、社会連携担当	西條 泰明 SAIJO Yasuaki
副学長 財務担当	梶原 修 KAJIWARA Osamu
学科長・専攻長 医学部医学科長	奥村 利勝 OKUMURA Toshikatsu
医学部看護学科長	升田 由美子 MASUDAYumiko
大学院博士課程医学専攻長	川辺 淳一 KAWABE Junichi
大学院修士課程看護学専攻長	藤井 智子 FUJII Tomoko
学長補佐 IR担当	松本 成史 MATSUMOTO Seiji
学長アドバイザー	森 千里 MORI Chisato

医学部			
医学科			
基礎医学講座			
解剖学	機能形態学	教授	吉田 成孝 YOSHIDA Shigetaka
	顕微解剖学		
生理学	自律機能	教授	入部 玄太郎 IRIBE Gentaro
	神経機能		
生化学		教授	川辺 淳一 KAWABE Junichi

薬理学		教授	中山 恒 NAKAYAMA Koh
病理学	腫瘍病理	教授	高澤 啓 TAKASAWA Akira
	免疫病理	教授	小林 博也 KOBAYASHI Hiroya
感染症学	微生物学	教授	原 英樹 HARA Hideki
	寄生虫学	教授	迫 康仁 SAKO Yasuhiro
社会医学		教授	西條 泰明 SAIJO Yasuaki
法医科学		教授	清水 恵子 SHIMIZU Keiko

医学科

臨床医学講座			
内科学	循環器・腎臓内科学	教授	中 川 直 樹 NAKAGAWA Naoki
呼吸器・脳神経内科学			
内分泌・代謝・膠原病内科学		教授	野 本 博 司 NOMOTO Hiroshi
消化器内科学		教授	藤 谷 幹 浩 FUJIYA Mikihiro
血液内科学			
精神医学		教授	橋 岡 禎 征 HASHIOKA Sadayuki
小児科学		教授	高 橋 悟 TAKAHASHI Satoru
外科学	血管・呼吸・腫瘍病態外科学		
心臓大血管外科学		教授	紙 谷 寛 之 KAMIYA Hiroyuki
消化器・移植外科学		教授	横 尾 英 樹 YOKOO Hideki
整形外科		教授	伊 藤 浩 ITO Hiroshi
皮膚科学		教授	藤 田 靖 幸 FUJITA Yasuyuki
腎泌尿器外科学		教授	沼 倉 一 幸 NUMAKURA Kazuyuki
眼科学		教授	長 岡 泰 司 NAGAOKA Taiji
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学		教授	高 原 幹 TAKAHARA Miki
産婦人科学		教授	加 藤 育 民 KATO Yasuhito
放射線医学		教授	沖 崎 貴 琢 OKIZAKI Atsutaka
麻酔・蘇生学		教授	牧 野 洋 MAKINO Hiroshi
脳神経外科学		教授	木 下 学 KINOSHITA Manabu
歯科口腔外科学			
救急医学		教授	岡 田 基 OKADA Motoi
地域医療教育学		教授	野 津 司 NOZU Tsukasa
地域がん診療連携			
形成・再建外科学			

看護学科

看護学講座			
看護学	教授	伊 藤 俊 弘 ITO Toshihiro	
	教授	菅 原 峰 子 SUGAWARA Mineko	
	教授	長谷川 博 亮 HASEGAWA Hiroaki	
	教授	濱 田 珠 美 HAMADA Tamami	
	教授	平 義 樹 HIRA Yoshiki	
	教授	藤 井 智 子 FUJII Tomoko	
	教授	升 田 由 美 子 MASUDA Yumiko	
	教授	山 内 ま ゆ み YAMAUCHI Mayumi	
	教授	山 根 由 起 子 YAMANE Yukiko	

一般教育

歴史・哲学		
心理学	教授	池 上 将 永 IKEGAMI Masanaga
社会学	教授	工 藤 直 志 KUDO Tadashi

数学		
数理情報科学	教授	高 橋 龍 尚 TAKAHASHI Tatsuhisa
物理学	教授	本 間 龍 也 HONMA Tatsuya
化学	教授	眞 山 博 幸 MAYAMA Hiroyuki
生物学	教授	日 下 部 博 一 KUSAKABE Hirokazu
英語	教授	三 好 暢 博 MIYOSHI Nobuhiro
ドイツ語		

センター等

図書館	館長	藤 谷 幹 浩 FUJIYA Mikihiro
保健管理センター	センター長	北 野 陽 平 KITANO Yohei
国際交流推進センター	センター長	東 信 良 AZUMA Nobuyoshi
入学センター	センター長	西 條 泰 明 SAIJO Yasuaki
教育センター	センター長	佐 藤 伸 之 SATO Nobuyuki
地域共生医育センター	センター長	牧 野 雄 一 MAKINO Yuichi
インスティテュショナル・リサーチ室	室長	松 本 成 史 MATSUMOTO Seiji
研究推進本部	本部長	川 辺 淳 一 KAWABE Junichi
知的財産センター	センター長	藤 谷 幹 浩 FUJIYA Mikihiro
動物実験施設	施設長	松 本 成 史 MATSUMOTO Seiji
実験実習機器センター	センター長	高 澤 啓 TAKAZAWA Akira
放射性同位元素研究施設	施設長	川 辺 淳 一 KAWABE Junichi
先進医工学研究センター	センター長	武 輪 能 明 TAKEWA Yoshiaki
看護職キャリア支援センター	センター長	升 田 由 美 子 MASUDA Yumiko
情報基盤センター	センター長	武 輪 能 明 TAKEWA Yoshiaki
臨床シミュレーションセンター	センター長	牧 野 洋 MAKINO Hiroshi
復職・子育て・介護支援センター	センター長	谷 野 美 智 枝 TANINO Mishie
監査室	特任室長	松 井 敏 MATSUI Satoshi

病院

病院長		東 信 良 AZUMA Nobuyoshi
副病院長	外来・医療機関連携、医療機器担当	藤 谷 幹 浩 FUJIYA Mikihiro
副病院長	多職種連携・PFM担当	大 田 哲 生 OTA Tetsuo
副病院長	事故防止、評価、臨床研究担当 医療安全管理責任者	松 本 成 史 MATSUMOTO Seiji
副病院長	経営・企画、国際担当	紙 谷 寛 之 KAMIYA Hiroyuki
副病院長	患者サービス、ボランティア担当	井 戸 川 み ど り IDOGAWA Midori
病院長補佐	職員啓発担当	田 崎 嘉 一 TASAKI Yoshikazu
病院長補佐	病院倫理担当	木 下 学 KINOSHITA Manabu
病院長補佐	卒後臨床研修センター長	牧 野 雄 一 MAKINO Yuichi
病院長補佐	経営企画部長	沖 崎 貴 琢 OKIZAKI Atsutaka
病院長補佐	救命救急センター長	岡 田 基 OKADA Motoi
病院長補佐	医療安全管理部長	林 達 哉 HAYASHI Tatsuya

外来主任科長		藤 谷 幹 浩 FUJIYA Mikihiro
診療科等		
内科(循環器・腎臓)	科長	中 川 直 樹 NAKAGAWA Naoki
内科(呼吸器・脳神経)		
内科(内分泌・代謝・膠原病)	科長	野 本 博 司 NOMOTO Hiroshi
内科(消化器)	科長	藤 谷 幹 浩 FUJIYA Mikihiro
内科(血液)		
精神科神経科	科長	橋 岡 禎 征 HASHIOKA Sadayuki
小児科	科長	高 橋 悟 TAKAHASHI Satoru
外科(血管・呼吸・腫瘍)		
外科(心臓大血管)	科長	紙 谷 寛 之 KAMIYA Hiroyuki
外科(消化器・移植)	科長	横 尾 英 樹 YOKOO Hideki
整形外科	科長	伊 藤 浩 ITO Hiroshi
皮膚科	科長	藤 田 靖 幸 FUJITA Yasuyuki
泌尿器科	科長	沼 倉 一 幸 NUMAKURA Kazuyuki
眼科	科長	長 岡 泰 司 NAGAOKA Taiji
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	高 原 幹 TAKAHARA Miki
産科婦人科	科長	加 藤 育 民 KATO Yasuhito
放射線科	科長	沖 崎 貴 琢 OKIZAKI Atsutaka
麻酔科蘇生科	科長	牧 野 洋 MAKINO Hiroshi
脳神経外科	科長	木 下 学 KINOSHITA Manabu
歯科口腔外科		
救急科	科長	岡 田 基 OKADA Motoi
リハビリテーション科	科長	大 田 哲 生 OTA Tetsuo
病理診断科	科長	谷 野 美 智 枝 TANINO Mishie
形成外科		
中央診療施設等		
臨床検査・輸血部	部長	坂 本 央 SAKAMOTO Naka
手術部	部長	横 尾 英 樹 YOKOO Hideki
放射線部	部長	沖 崎 貴 琢 OKIZAKI Atsutaka
材料部	部長	長 岡 泰 司 NAGAOKA Taiji
病理部	部長	谷 野 美 智 枝 TANINO Mishie
救命救急センター	センター長	岡 田 基 OKADA Motoi
集中治療部	部長	小 北 直 宏 KOKITA Naohiro
総合診療部	部長	野 津 司 NOZU Tsukasa
周産母子センター	センター長	長 屋 建 NAGAYA Ken
経営企画部	部長	沖 崎 貴 琢 OKIZAKI Atsutaka
卒後臨床研修センター	センター長	牧 野 雄 一 MAKINO Yuichi

遠隔医療センター	センター長	岡 田 基 OKADA Motoi
臨床研究支援センター	センター長	松 本 成 史 MATSUMOTO Seiji
地域医療総合センター	センター長	大 田 哲 生 OTA Tetsuo
リハビリテーション部	部長	大 田 哲 生 OTA Tetsuo
患者総合サポートセンター	センター長	大 田 哲 生 OTA Tetsuo
臨床工学室	室長	横 尾 英 樹 YOKOO Hideki
遺伝子診療カウンセリング室	室長	蒔 田 芳 男 MAKITA Yoshio
光学医療診療部	部長	藤 谷 幹 浩 FUJIYA Mikihiro
外来化学療法センター	センター長	田 邊 裕 貴 TANABE Hiroki
腫瘍センター	センター長	田 邊 裕 貴 TANABE Hiroki
緩和ケア診療部	部長	牧 野 洋 MAKINO Hiroshi
栄養管理部	部長	藤 谷 幹 浩 FUJIYA Mikihiro
肝疾患相談支援室	室長	澤 田 康 司 SAWADA Koji
乳腺疾患センター	センター長	北 田 正 博 KITADA Masahiro
透析センター	センター長	中 川 直 樹 NAKAGAWA Naoki
超音波画像診断センター	センター長	齊 藤 江 里 香 SAITO Erika
専門医育成・管理センター	センター長	佐 藤 伸 之 SATO Nobuyuki
高難度医療管理センター	センター長	紙 谷 寛 之 KAMIYA Hiroyuki
がん遺伝子診療部	部長	田 邊 裕 貴 TANABE Hiroki
脳卒中センター	センター長	木 下 学 KINOSHITA Manabu
医療安全管理部	部長	林 達 哉 HAYASHI Tatsuya
感染制御部	部長	高 原 幹 TAKAHARA Miki
薬剤部	部長	田 崎 嘉 一 TASAKI Yoshikazu
看護部	部長	井 戸 川 み どり IDOGAWA Midori
診療技術部	部長	宗 万 孝 次 SOMAN Koji

事務局		
事務局長		梶 原 修 KAJIWARA Osamu
次長(総務・教務担当)		高 橋 慶 匡 TAKAHASHI Yoshimasa
次長(財務・病院担当)		郡 英 男 KOORI Hideo
総務課長		小 島 清 志 KOJIMA kiyoshi
人事課長		佐 藤 美 喜 子 SATO Mikiko
財務課長		木 村 勉 KIMURA Tsutomu
研究・学術情報課長		磯 本 善 男 ISOMOTO Yoshio
施設課長		尾 崎 直 OZAKI Sunao
学務課長		宿 南 靖 仁 SHUKUNAMI Yasuhito
医療支援課長		見 上 直 樹 MIKAMI Naoki
医事課長		石 坂 貴 光 ISHIZAKA Takamitsu

法人役員数

令和8年5月1日現在

学長	理事	監事	合計
1	4(2)	2(1)	7(3)

※()内は非常勤役員で内数。

大学職員数

令和8年5月1日現在

区分		学長	副学長	教員					一般職 (事務・技術職員)	一般職 (技能・労務職員)	医療技術職員	看護職員	合計
				教授	准教授	講師	助教	計					
学長・副学長		1	6(4)										7(4)
医学部	講座			33	24	22	71	150	4				154
	学科目			7	5	1	3	16					16
病院				6	9	26	80	121		4	213	748	1,086
室・センター等				4	3	4	8	19	8			2	29
監査室									2				2
事務局	事務局長		1										1
	職員								152				152
計		1	7(4)	50	41	53	162	306	166	4	213	750	1,447(4)

※法人役員(学長、副学長)を含む。※()内は教授と兼務で内数。

寄附講座教員数

令和8年5月1日現在

区分	教授	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	合計
人工関節講座		(1)		(1)	1	1(2)
頭頸部癌先端の診断・治療学講座			(1)	(1)		(2)
心腎先端医療開発講座		(1)			1(1)	1(2)
女性活躍・地域活性推進外科学講座		(1)			1	1(1)
地域連携医学講座		(1)		1		1(1)
予防医学講座		(1)	(1)		1(1)	1(3)
眼科地域医療創生講座		1	(1)			1(1)
地域小児医療支援講座		(1)			1	1(1)
包括の高度慢性下肢虚血研究講座		(1)			1	1(1)
消化器診療連携講座		(1)		(1)	1	1(2)
地域支援・専門医育成講座		(1)			1	1(1)
消化器内視鏡医学講座		(1)		1		1(1)
地域眼科医療支援技術開発講座		(1)			1(1)	1(2)
循環器イノベーション創出講座		(1)	(1)			(2)
統合腎臓治療学講座		(1)		1		1(1)
計		1(13)	(4)	3(3)	9(3)	13(23)

※()内は臨床講座教員と兼務で外数。

共同研究講座教員数

令和8年5月1日現在

区分	教授	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	合計
消化器先端医学講座		(1)		1		1(1)
先進ゲノム地域医療講座			(1)		1	1(1)
計		(1)	(1)	1	1	2(2)

※()内は臨床講座教員と兼務で外数。

歴代学長

初代学長	山田 守英	YAMADA Morihide	昭和48年 7月29日 - 昭和56年 6月30日
第二代学長	黒田 一秀	KURODA Kazuhide	昭和56年 7月 1日 - 昭和62年 6月30日
第三代学長	下田 晶久	SHIMODA Akihisa	昭和62年 7月 1日 - 平成 3年 6月30日
第四代学長	清水 哲也	SHIMIZU Tetsuya	平成 3年 7月 1日 - 平成 9年 6月30日
第五代学長	久保 良彦	KUBO Yoshihiko	平成 9年 7月 1日 - 平成15年 6月30日
第六代学長	八竹 直	YACHIKU Sunao	平成15年 7月 1日 - 平成19年 6月30日
第七代学長	吉田 晃敏	YOSHIDA Akitoshi	平成19年 7月 1日 - 令和 4年 3月 3日
第八代学長	西川 祐司	NISHIKAWA Yuji	令和 4年 4月 1日 -

講座及び学科目等

医学部

医学科[26講座]		看護学科[1講座]
基礎医学[8講座]		●看護学講座
●解剖学講座 機能形態学分野 顕微解剖学分野 ●生理学講座 自律機能分野 神経機能分野 ●生化学講座 ●薬理学講座 ●病理学講座 腫瘍病理分野 免疫病理分野 ●感染症学講座 微生物学分野 寄生虫学分野 ●社会医学講座 ●法医科学講座		一般教育[10学科目]
臨床医学[18講座]		●歴史・哲学 ●心理学 ●社会学 ●数学 ●数理情報科学 ●物理学 ●化学 ●生物学 ●英語 ●ドイツ語
●内科学講座 循環器・腎臓内科学分野 呼吸器・脳神経内科学分野 内分泌・代謝・膠原病内科学分野 消化器内科学分野 血液内科学分野 ●精神医学講座 ●小児科学講座 ●外科学講座 血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 心臓大血管外科学分野 消化器・移植外科学分野 ●整形外科講座 ●皮膚科学講座 ●腎泌尿器外科学講座 ●眼科学講座 ●耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 ●産婦人科学講座 ●放射線医学講座 ●麻酔・蘇生学講座 ●脳神経外科学講座 ●歯科口腔外科学講座 ●救急医学講座 ●地域医療教育学講座 ●地域がん診療連携講座 ●形成・再建外科学講座		寄附講座[15講座]
		●人工関節講座 ●頭頸部癌先端の診断・治療講座 ●心腎先端医療開発講座 ●女性活躍・地域活性推進外科学講座 ●地域連携医学講座 ●予防医学講座 ●眼科地域医療創生講座 ●地域小児医療支援講座 ●包括的高度慢性下肢虚血研究講座 ●消化器診療連携講座 ●地域支援・専門医育成講座 ●消化器内視鏡医学講座 ●地域眼科医療支援技術開発講座 ●循環器イノベーション創出講座 ●統合腎臓治療講座
		共同研究講座[2講座]
		●消化器先端医学講座 ●先進ゲノム地域医療講座

大学院

医学系研究科			
課程	専攻	コース名	領域名
博士課程	医学	研究者コース	腫瘍・血液病態学、社会・環境医学、免疫・感染症病態学、感覚器・運動器病態学、内分泌・代謝病態学、神経・精神医学、循環器・呼吸器病態学、消化器病態学、分子生理・薬理学、生殖・発達・再生医学
		臨床研究者コース	臨床腫瘍・血液学、臨床環境・社会医学、臨床免疫・感染症学、臨床感覚器・運動器学、臨床内分泌・代謝学、臨床神経・精神医学、臨床循環器・呼吸器学、臨床消化器学、臨床薬理・分子生理学、臨床生殖・発達・再生医学
		臨床医学コース	
		次世代がんインフォマティクス人材養成コース	
修士課程	看護学	修士論文コース	看護のイノベーションと健康増進分野
			成人看護学、健康教育開発学、応用基礎医学
			地域社会の発展・創生分野
			高齢者看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、基礎看護学、看護管理学
		高度実践コース	発達促進分野
			母性看護学、助産学、小児・家族看護学、精神保健看護学
		高度実践コース	がん看護学、高齢者看護学

学生数等・学年暦

入学志願者数・入学者数

区分			医学科			看護学科		
			募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数
令和8年度	総合型選抜	北海道特別選抜	40	108	40			
	学校推薦型選抜	道北・道東特別選抜	7	22	7			
	前期		48	273	48	10	23	10
	私費外国人留学生		若干人	0	0	40	55	40
	後期					若干人	0	0
	編入					10	89	10
令和7年度	総合型選抜	北海道特別選抜	40	127	40			
	学校推薦型選抜	道北・道東特別選抜	7	27	7			
	前期		40	147	40	10	22	10
	私費外国人留学生		若干人	1	0	40	95	40
	後期		8	232	8	若干人	0	0
	編入		10	131	8	10	120	10

学生数

令和8年5月1日現在

区分	入学定員	現員							
			1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
医学科	105 (2年次編入学定員10を含む)	男	60	67	49	62	58	69	365
		女	39	40	47	49	43	43	261
		計	99	107	96	111	101	112	626
看護学科	60	男	6	2	7	4			19
		女	55	59	49	54			217
		計	61	61	56	58			236

学年暦

前期	4月 1日 - 9月30日
■ 学年始	4月 1日
■ 入学式	4月 6日
■ 夏季休業	7月 6日 - 8月21日
後期	10月 1日 - 3月31日
■ 本学記念日	11月 5日

■ スチューデントナース認定式(看護学科)	11月 6日
■ 冬季休業	12月 11日 - 1月15日
■ 白衣式(医学科)	12月 16日
■ 春季休業	2月 26日 - 4月 3日
■ 学士・修士・博士学位記授与式	3月 3日
■ 学年終	3月 31日



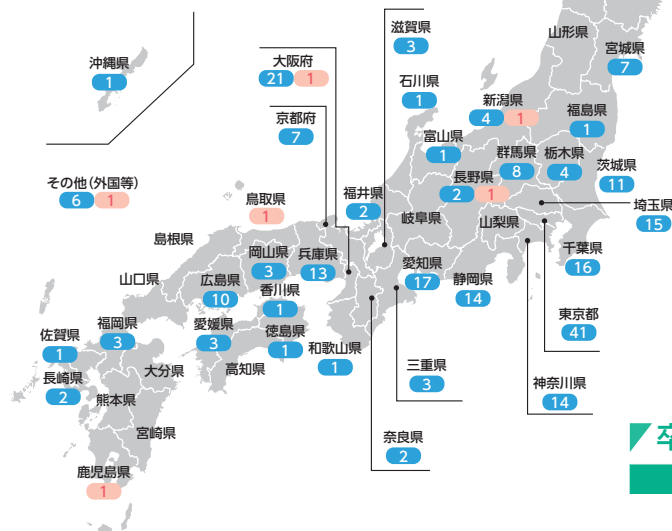
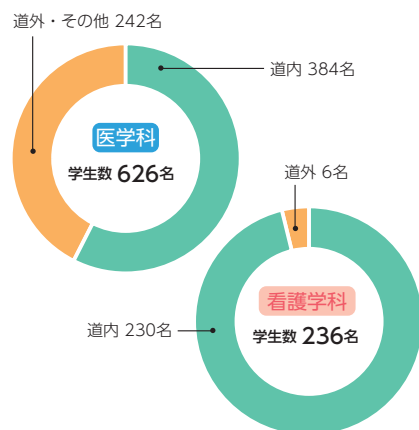
白衣式



学位記授与式

出身高校都道府県別学生数一覧 令和8年4月1日現在

医学科(名) 看護学科(名)



関連教育 病院等

市立旭川病院

- 診療科／25 ●病床数／365
- 臨床実習学生受入数延べ／37人

日本赤十字社旭川赤十字病院

- 診療科／29 ●病床数／520
- 臨床実習学生受入数延べ／41人

JA北海道厚生連旭川厚生病院

- 診療科／24 ●病床数／406
- 臨床実習学生受入数延べ／90人

国立病院機構旭川医療センター

- 診療科／19 ●病床数／310
- 臨床実習学生受入数延べ／40人

医療法人社団圭泉会旭川圭泉会病院

- 診療科／5 ●病床数／399
- 臨床実習学生受入数延べ／0人

奨学生数

令和7年度実績

区分	学科・課程	本学独自の奨学金	日本学生支援機構奨学金		その他の自治体等奨学金
			給付型	貸与型	
医学部	医学科	2	129	148	36
	看護学科	58	54	92	—
大学院	博士課程	0	—	0	—
	修士課程	1	—	0	—

(延べ人数)

本学独自の奨学金

- 医学科学生に対する奨学金 (2011年4月創設)
- 看護学科学生に対する奨学金 (2008年4月創設)
- 大学院学生に対する奨学金 (2008年4月創設)

その他の自治体等奨学金

- 北海道医師養成確保修学資金
- 富良野市医師養成確保修学資金
- 深川市医師養成修学資金
- 遠軽町旭川医科大学医師養成確保修学資金

※上記は本学が貸与の指定校のもの

その他の本学学資等支援制度

- 授業料減免制度
- 授業料特別貸与制度 (2011年4月創設)
- 学部学生海外留学助成制度 (2010年5月創設)
- 卒業生に対する奨学金貸与制度 (2011年4月創設)
- 初期臨床研修医に対する奨学金 (2012年4月創設)

卒業生数

区分		～令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	計
医学科	男	3,572	94	65	52	3,783
	女	1,171	39	49	32	1,291
	計	4,743	133	114	84	5,074
看護学科	男	111	3	2	9	125
	女	1,448	58	57	51	1,614
	計	1,559	61	59	60	1,739
合計		6,302	194	173	144	6,813

国家試験合格者数

区分		令和5年度	令和6年度	令和7年度
医師	受験者数	150	128	91
	合格者数	134	119	85
	合格率(%)	89.3	93.0	93.4
保健師	受験者数	7	9	9
	合格者数	7	9	9
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0
助産師	受験者数	3	6	4
	合格者数	3	6	4
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0
看護師	受験者数	62	59	60
	合格者数	62	59	59
	合格率(%)	100.0	100.0	98.3

(※既卒者含む)

大学院医学系研究科定員・現員

令和8年5月1日現在

専攻	性別	入学 定員	収容 定員	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		現員計
				4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	
博士課程	男	15	60	10	3	5	3	10	3	22	8	64
	女			3	1	6	1	2	0	11	0	24
	計			13	4	11	4	12	3	33	8	88
修士課程	男	16	32		2		2					4
	女				13		16					29
	計				15		18					33

大学院 10月入学の導入

大学院博士課程において、国際化の進展を図るとともに、職業を有しながら学位取得を目指す方の修学機会の多様化を推進するため、留学生、社会人を対象とした10月入学制度を、平成24年度から導入しています。

学位授与者数

令和8年5月1日現在

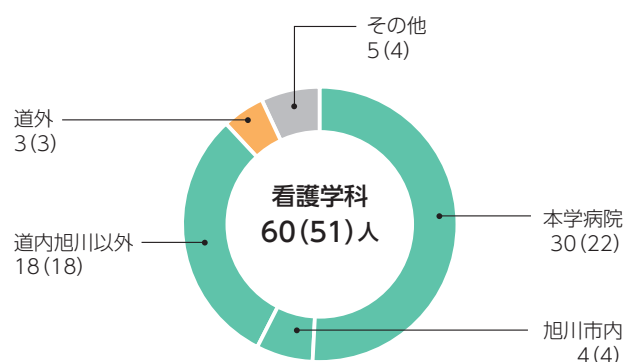
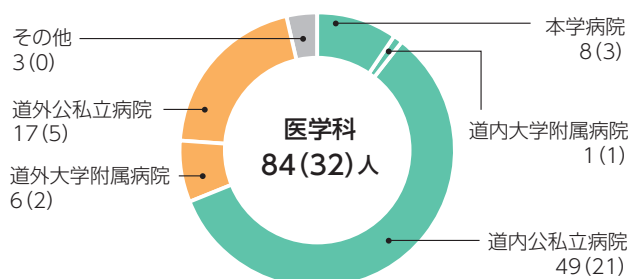
区分			～令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	計
博士(医学)	課程博士	男	495	9	7	8	519
		女	95	3	1	2	101
		計	590	12	8	10	620
	論文博士	男	456	5	5	4	470
		女	41	3	0	0	44
		計	497	8	5	4	514
	合計		1,087	20	13	14	1,134
修士(看護学)	男	38	1	6	0	45	
	女	209	4	3	5	221	
	計	247	5	9	5	266	

令和7年度卒業生の進路

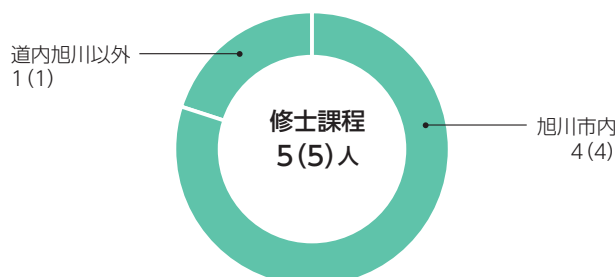
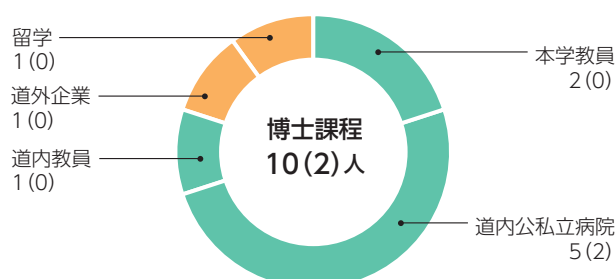
北海道内 北海道外 その他

※()は内数で女子を示す。

医学部



大学院



研究領域等

医学科／基礎医学

講座名		主要研究領域
解剖学講座	機能形態学分野	神経解剖学、神経病理学
	顕微解剖学分野	細胞生物学、実験内分泌学、分泌顆粒形成機構の分子細胞生物学的解析
生理学講座	自律機能分野	心臓統合生理学、心臓メカニクスとメカノバイオロジー
	神経機能分野	感覚・運動連関、嗅覚運動系の神経生理学
生化学講座		血管新生、神経再生、骨格筋再生、再生医学、細胞カルシウム代謝調節、蛋白質磷酸化による細胞機能の制御、血管平滑筋の収縮制御
薬理学講座		分子腫瘍学、分子薬理学、酸素生物学
病理学講座	腫瘍病理分野	分子病理学、腫瘍病理学、探索病理学
	免疫病理分野	腫瘍免疫学、アレルギー学、免疫学、腫瘍生物学
感染症学講座	微生物学分野	微生物学、免疫学、分子生物学
	寄生虫学分野	エキノコックス症、有鉤囊虫症分子生物学、免疫生物学、分子・免疫診断学、分子・免疫疫学、トキソプラズマ症、免疫寄生虫学、遺伝子工学、細胞生物学、ベクターバイオロジー
社会医学講座		公衆衛生学、衛生学、疫学、臨床疫学、産業保健、精神保健、国際保健、医療情報学、医療経済学
法医学講座		法医毒理学、個人識別とDNA多型

医学科／臨床医学

講座名		主要研究領域
内科学講座	循環器・腎臓内科学分野	内科学、循環器学、高血圧学、腎臓学、老年医学
	呼吸器・脳神経内科学分野	内科学、呼吸器学、神経内科学、腫瘍学
	内分泌・代謝・膠原病内科学分野	内科学、糖尿病・代謝学、内分泌学、膠原病学
	消化器内科学分野	内科学、消化器病学、消化器内視鏡学
	血液内科学分野	内科学、血液病学、造血細胞移植学
精神医学講座		一般精神医学、生物学的精神医学、老年精神医学、認知症学、児童精神医学
小児科学講座		小児感染免疫学、小児内分泌学・代謝学、小児神経学、小児血液・腫瘍学、小児循環器病学、新生児学、小児腎臓病学、てんかん学、小児消化器病学
外科学講座	血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野	血管外科、血管内治療外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科
	心臓大血管外科学分野	心臓外科、胸部大動脈外科
	消化器・移植外科学分野	消化器外科学[肝・胆・膵外科] [上部消化管(食道・胃)・下部消化管(小腸・大腸)外科] 内視鏡外科学、移植外科学、一般外科学、ロボット外科学
整形外科講座		関節外科、人工関節外科、骨軟部腫瘍の診断と治療、脊椎・脊髄外科、スポーツ整形外科、リウマチの外科、手の外科、骨粗鬆症、再生医療
皮膚科学講座		皮膚科学、乾癬、角化異常症、アトピー性皮膚炎、皮膚真菌学、皮膚腫瘍学、皮膚アレルギー学、皮膚膠原病学、美容皮膚科学、水疱症、皮膚病理組織学
腎泌尿器外科学講座		腎・尿路性器悪性腫瘍、癌化学療法、小児泌尿器科、女性泌尿器科、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿路結石症、副腎外科、内視鏡外科、ロボット外科、腎移植
眼科学講座		眼科学、網膜硝子体疾患、角膜移植、眼表面疾患、屈折矯正手術、網膜神経保護、眼微小循環、緑内障、眼底画像解析、ロービジョン、斜視、眼炎症疾患、神経眼科、眼形成
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座		耳科、平衡神経科、鼻科、口腔咽頭科、喉頭科、頭頸部外科、気管食道科
産婦人科学講座		周産期医学、婦人科腫瘍学、生殖内分泌学・不妊症、女性医学
放射線医学講座		放射線診断学、放射線腫瘍学、核医学、インターベンショナルラジオロジー
麻酔・蘇生学講座		静脈麻酔薬の薬物動態、神経障害性疼痛のメカニズムと治療、周術期の血液凝固、心臓血管麻酔、経食道心エコー、気道管理、末梢神経ブロック、筋弛緩薬
脳神経外科学講座		脳神経外科、脳腫瘍、頭蓋底外科、脳血管外科、機能脳神経外科、脳血管内手術、てんかん外科、小児脳神経外科、脊椎・脊髄外科
歯科口腔外科学講座		口腔癌、口腔粘膜疾患、人工歯根、顎変形症、口唇裂・口蓋裂、口腔感染症、口臭、顎関節疾患、口腔ケア、口腔顔面外傷、小児口腔外科、咀嚼障害、口腔顔面痛
救急医学講座		外傷学、中毒学、呼吸循環補助、心肺蘇生、敗血症、環境障害、災害医療、終末期医療

講座名	主要研究領域
地域医療教育学講座	地域医療、専門医とプライマリ・ケア
形成・再建外科学講座	再建外科学、創傷外科学、頭蓋顎顔面外科学、皮膚腫瘍学

看護学科

講座名	主要研究領域
看護学講座	専門基礎医学、健康教育開発学 基礎看護学、成人看護学、高齢者看護学、小児看護学、母性看護学・助産学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、看護管理学、がん看護学

一般教育

学科目名	主要研究領域
心理学	実験心理学、認知神経科学、臨床発達心理学
社会学	医療社会学
数学	解析学、非線型分散型偏微分方程式
数理情報科学	医用生体工学、運動生理学、フラクタル生理学、循環生理学、微小循環学、認知科学、医学統計学
物理学	固体物理学、銅酸化物高温超伝導体、低次元導体、量子測定理論
化学	物理化学、ソフトマター、表面化学、非線形科学、バイオミメティクス
生物学	生殖生物学、染色体科学（配偶子、胚）
英語	理論言語学、応用言語学、英語教育学

センター等

施設名	主要研究領域・業務内容
保健管理センター	健康管理、青年期生活習慣病予防、感染予防、メンタルケア
国際交流推進センター	教育・研究、技術協力等の国際交流を推進
入学センター	入学者選抜に関する企画・実施・調査および評価
教育センター	医学看護学教育
先進医工学研究センター	医工学（人工臓器学、再生医工学、組織工学、治療医工学、計測診断医工学）
地域共生医育センター	地域と共生する一貫医学教育、地域医療支援、マルチタスク型地域医療医育成
インスティテュショナル・リサーチ室	機関研究（教学、研究・社会貢献IR）
研究推進本部	臨床研究計画の策定および実施体制の相談・コンサルテーション、薬事申請の支援、研究者教育や研究シーズの発掘、知的財産関係や研究者の産学官連携支援
知的財産センター	研究成果から生じる知的財産の取得・管理・活用等の支援
動物実験施設	動物の実験、飼養保管、繁殖、生殖工学
実験実習機器センター	組織学的解析、生化学・分子生物学的解析
放射性同位元素研究施設	放射性同位元素等を用いた研究
看護職 キャリア 支援センター	教育プログラム開発部門
	生涯学習支援部門
	人事交流部門
	地域看護職連携部門
学内共同 利用施設	情報基盤センター
	復職・子育て・介護支援センター

病院

部署名	主要研究領域・業務内容
リハビリテーション科	リハビリテーション医学、運動学、計算論的神経科学、電気生理学、物理療法学、装具学
病理診断科	診断病理学、腫瘍病理学、腫瘍免疫、分子病理学、細胞診断学、デジタルパソロジー
光学医療診療部	消化器内視鏡、呼吸器内視鏡、治療内視鏡
腫瘍センター	がん相談支援、院内がん登録
緩和ケア診療部	緩和医療学、医療哲学、医療倫理、アドバンス・ケア・プランニング
乳腺疾患センター	乳腺疾患学、臨床腫瘍学、遺伝性乳癌
臨床検査・輸血部	臨床検査医学、輸血医学、臨床電気生理学、感染制御支援、生体情報処理、生理検査、自己血輸血
手術部	手術医学、安全管理、周術期ケア
放射線部	放射線診断学、放射線治療学、放射線防護、放射線物理学、放射線技術学、核医学、画像下治療
材料部	医療機器の洗浄、滅菌、供給、医療材料の管理
病理部	診断病理学、腫瘍病理学、腫瘍免疫、分子病理学、細胞診断学
救命救急センター	救急医学、心肺蘇生、中毒、外傷、敗血症
集中治療部	集中治療医学、循環呼吸調節、血液浄化法
総合診療部	非臓器別総合内科学
周産母子センター	周産期医学、産科学、新生児学、周産期感染症学、小児外科学
経営企画部	病院経営分析・管理、病院情報システム、遠隔医療、医療情報ネットワーク、情報セキュリティ
卒後臨床研修センター	臨床研修プログラムの整備並びに実施管理、臨床研修支援
遠隔医療センター	遠隔医療、クラウドシステム
臨床研究支援センター	治験（医師主導治験を含む）支援、臨床研究支援、患者申出療養
リハビリテーション部	理学療法学、作業療法学、言語聴覚療法学、リハビリテーション医学、運動学、生体工学
患者総合サポートセンター	外来診療等の予約、退院支援、継続看護、地域医療機関や市町村などの相互連携の窓口となり患者さんの療養生活の向上を支援、入退院管理、患者支援、ベッドコントロール
臨床工学室	臨床工学、医用工学
遺伝子診療カウンセリング室	遺伝子診断、遺伝カウンセリング、出生前診断、発症前診断
肝疾患相談支援室	肝疾患相談
外来化学療法センター	外来化学療法
栄養管理部	臨床栄養学、栄養管理、給食管理
透析センター	血液透析、血液濾過透析、腹膜透析、アフエレシス
超音波画像診断センター	超音波医学
専門医育成・管理センター	専攻医に対する情報提供、連携施設ローテーションの調整、研修状況の調査、セミナーの開催
高難度医療管理センター	高難度新規医療技術等
がん遺伝子診療部	がん遺伝子パネル検査（包括的がんゲノムプロファイリング検査）
脳卒中センター	脳卒中学、神経科学、神経外科学、脳血管内治療学
医療安全管理部	インシデントレポートの原因分析と検証、医療事故防止対策の検討及び推進
感染制御部	感染制御
薬剤部	臨床薬理学、臨床薬理学、医療薬学、神経科学
看護部	急性期看護、慢性期看護、精神看護、看護管理、看護教育、ヘルスプロモーション

旭川医科大学病院

旭川医科大学病院

基本理念

患者中心の医療を実践し、地域医療に寄与するとともに、国際的に活躍できる医療人を育成する。

目標

- 1 人権や尊厳を思い遣る患者中心の医療を行う。
- 2 安心・安全を心がける中で、高度な医療を提供する。
- 3 予防・健康医学に取り組み、地域医療や福祉の向上に貢献する。
- 4 倫理観にあふれ国際感覚に富んだ医療人を育成する。
- 5 未来の医療を創造し、その成果を国内外に発信する。

機関別認証評価

旭川医科大学病院は次の認証を受けています。

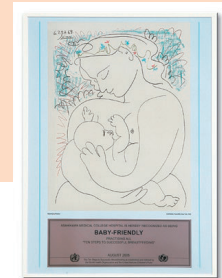
病院機能評価〔公益財団法人 日本医療機能評価機構〕

病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が適切に実施されているかを、所定の評価項目に沿って、評価調査者(サーベイヤー)から中立・公平な立場で評価されたものです。



赤ちゃんにやさしい病院

平成17年8月に、「母乳育児成功のための10カ条」(WHO・ユニセフによる共同声明)を実践する施設等に対する「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)」の認定をWHO・ユニセフから受けました。道内では3番目、国立大学病院では全国で初めての認定病院となりました。

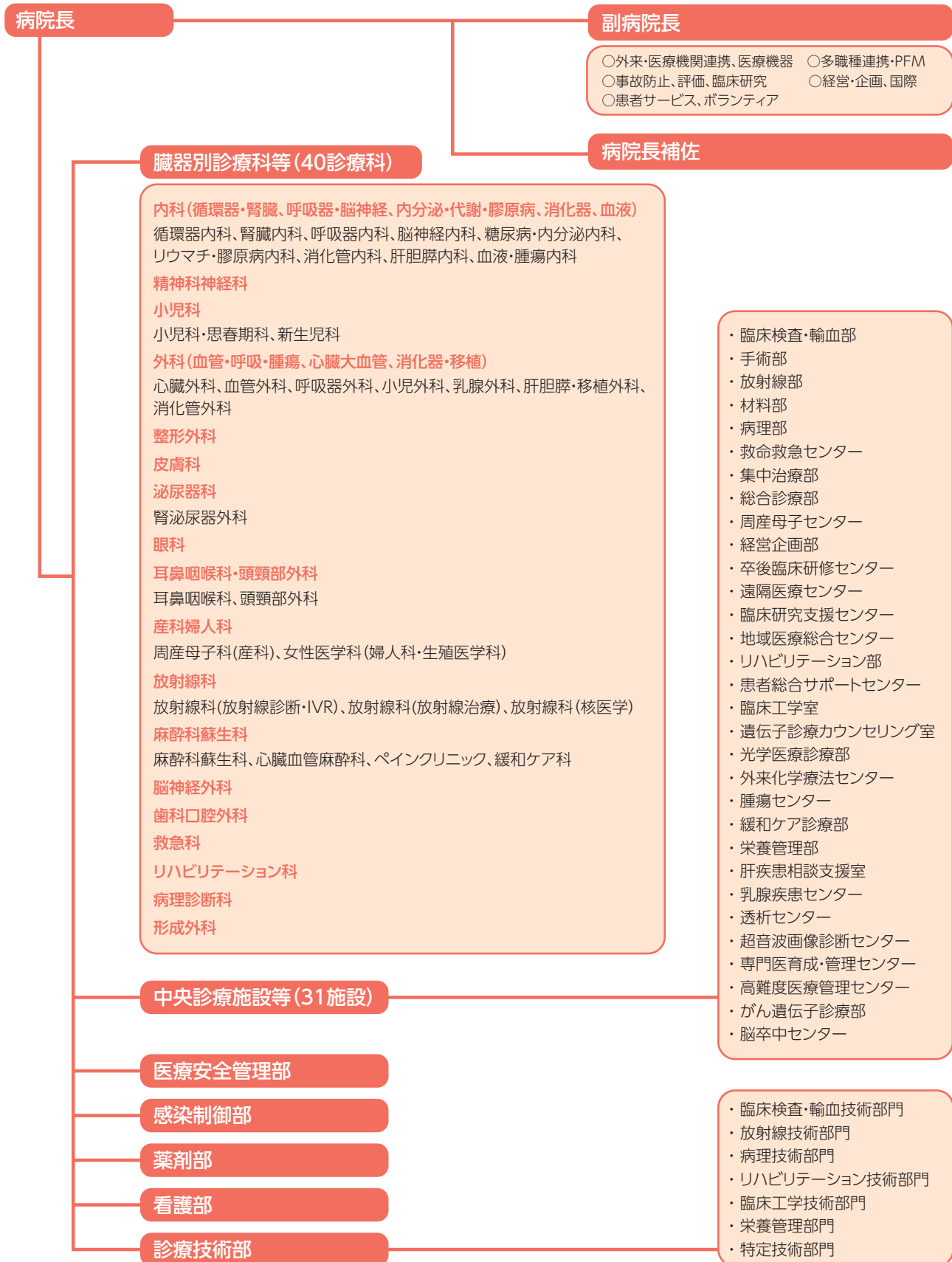


医療機関の主な指定状況等

法令等による指定の名称	指定(更新)の年月
医療法による開設許可(承認)	昭和51年
特定機能病院	平成 6年10月
エイズ診療ブロック拠点病院	平成 9年 4月
DPC 対象病院	平成15年 6月
災害派遣医療チーム(DMAT)指定医療機関	平成19年 9月
肝疾患診療連携拠点病院	平成21年 8月
道北ドクターヘリ協力基幹病院	平成 21年10月
救命救急センター	平成 22年10月
地域周産期母子医療センター	平成23年 3月
災害拠点病院(地域)	平成 23年11月
赤ちゃんにやさしい病院	平成30年 7月
がんゲノム医療連携病院	平成 30年10月
病院機能評価3rdG:ver.2.0	令和 2年 3月
特定行為研修指定研修機関	令和 3年 8月
北海道高度がん診療中核病院	令和 5年 3月
赤ちゃんにやさしいNICU	令和 5年 8月
地域がん診療連携拠点病院	令和 6年 3月



組織機構図



令和8年7月1日現在

病床数	計 558
-----	-------

※許可病床数602床

患者数

※昭和51年11月1日～令和8年3月31日

■ 紹介割合・逆紹介割合

道内振興局別入院患者延数・外来患者延数

※旭川市を除く



診療実績 [令和7年度]

退院患者統計

世界保健機関 (WHO) が定める国際疾病分類 (ICD-10) ※に準じて分類

ICD-10分類	件数	率
I 感染症および寄生虫症 (A00-B99)	155	1.02%
II 新生物 (C00-D48)	5,370	35.34%
III 血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50-D89)	77	0.51%
IV 内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	341	2.24%
V 精神および行動の障害 (F00-F99)	81	0.53%
VI 神経系の疾患 (G00-G99)	319	2.10%
VII 眼および付属器の疾患 (H00-H59)	1,487	9.79%
VIII 耳および乳様突起の疾患 (H60-H95)	68	0.45%
IX 循環器系の疾患 (I00-I99)	2,037	13.41%
X 呼吸器系の疾患 (J00-J99)	501	3.30%
XI 消化器系の疾患 (K00-K93)	1,451	9.55%
XII 皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	177	1.16%
XIII 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	963	6.34%
XIV 腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	545	3.59%
XV 妊娠、分娩および産後 (O00-O99)	365	2.40%
XVI 周産期に発生した病態 (P00-P96)	275	1.81%
XVII 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	289	1.90%
XVIII 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	19	0.13%
XX 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	644	4.24%
XX 傷病および死亡の外因 (V01-Y98)	0	0.00%
XXI 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用 (Z00-Z98)	5	0.03%
XXII 特殊目的用コード (U00-U89) ※コロナ関連	26	0.17%
計	15,195	100%

※国際疾病分類＝疾病及び関連保健問題の国際統計分類

臨床検査件数

区分	入院(件)	外来(件)	計(件)
一般検査	28,306	122,757	151,063
血液学的検査	125,845	201,308	327,153
生化学的検査	849,905	1,786,745	2,636,650
免疫学的検査	100,452	241,199	341,651
内分泌学的検査	16,092	60,060	76,152
微生物学的検査	10,755	4,149	14,904
病理学的検査	1,249	3,459	4,708
生理機能検査	74,830	73,973	148,803
その他検体検査	507	91	598
採血・採液等	74,141	4,209	78,350
内視鏡検査	858	4,086	4,944
分類コード未収載	0	8	8
計	1,282,940	2,502,044	3,784,984

救急患者数

区分	初診(人)	再診(人)	計(人)
循環器内科	34	144	178
腎臓内科	0	7	7
呼吸器内科	6	84	90
脳神経内科	6	49	55
糖尿病・内分泌内科	4	16	20
リウマチ・膠原病内科	2	24	26
血液・腫瘍内科	0	48	48
消化器内科	32	251	283
精神科神経科	6	26	32
小児科・思春期科	28	183	211
新生児科	19	7	26
心臓外科	27	58	85
血管外科	16	25	41
呼吸器外科	3	5	8
乳腺外科	1	28	29
小児外科	5	32	37
肝胆膵・移植外科	6	33	39
消化管外科	9	42	51
整形外科	48	106	154
皮膚科	18	54	72
泌尿器外科	31	108	139
眼科	26	36	62
耳鼻咽喉科	100	131	231
頭頸部外科	0	4	4
周産母子科(産科)	29	95	124
女性医学科(婦人科・生殖医学科)	16	55	71
緩和ケア科	0	3	3
脳神経外科	118	196	314
歯科口腔外科	5	29	34
救急科	468	1,275	1,743
形成外科	14	27	41
計	1,077	3,181	4,258

手術件数

区分	件数
手術室実施分	7,705
うち全身麻酔件数	4,941

分娩件数

区分	成熟児	未熟児	計
正常分娩	117	16	133
異常分娩	109	50	159
計	226	66	292

リハビリテーション部

区分	件数
理学療法	49,050
作業療法	19,117
言語療法	10,141
計	78,308
実患者数	6,616 人

集中治療部

診療科別入室患者数

区分	患者数
循環器内科	72
腎臓内科	1
脳神経内科	3
糖尿病・内分泌内科	1
リウマチ・膠原病内科	2
消化器内科	5
血液・腫瘍内科	3
小児科	10
心臓外科	263
血管外科	89
呼吸器外科	4
乳腺外科	1
小児外科	7
消化管外科	46
肝胆膵・移植外科	152
整形外科	30
皮膚科	5
腎泌尿器科	21
頭頸部外科	6
周産母子科	5
女性医学科	2
脳神経外科	145
歯科口腔外科	3
救急科	57
形成外科	9
計	942

X線撮影等人数

区分	X線撮影(人)	X線透視(人)	X線CT(人)	血管造影(人)
入院患者	31,978	2,513	6,247	1,538
外来患者	43,134	1,106	22,558	423
計	75,112	3,619	28,805	1,961

放射線治療等人数

区分	放射線治療(人)	治療計画(人)	核医学(人)	MRI(人)
入院患者	3,831	376	577	2,061
外来患者	3,265	357	2,193	7,383
計	7,096	733	2,770	9,444

血液製剤使用数

血液製剤	単位数	バッグ数
赤血球製剤	11,527	5,849
血漿製剤	8,316	3,787
血小板製剤	17,235	1,268
自己血	170	108
計	37,248	11,012

病理学的検査件数

区分	院内	受託	計
病理組織診検査	6,747	256	7,003
細胞診	4,178	0	4,178
迅速診断	432	0	432
遠隔病理画像診断	0	13	13
計	11,357	269	11,626

処方箋調剤件数

区分	件数
入院処方箋	107,156
外来院内処方箋	6,723
注射処方箋	83,415

病理解剖件数

区分	件数
死亡患者数	351 人
病理解剖数※	8 件
剖検率	2 %
死産児解剖数	1 件

※死産含まない。

注射剤無菌調製件数

区分	件数
抗悪性腫瘍剤	20,643
中心静脈栄養剤	4,340
その他の薬剤	20,533

麻酔件数

区分	件数
全身麻酔	4,941
局所麻酔	2,764
計	7,705
神経ブロック	285

病棟薬剤業務等件数

区分	件数
病棟薬剤業務	39,347
薬剤管理指導	16,250

図書館

図書館では、図書館をより身近に利用してもらうため、展示や様々なイベントを行っています。(テーマに沿った企画展示、本学関係者による小規模の講演会や各種データベースの説明会など。)

また、図書館をよく知ることのできる「図書館ツアー」の実施や広報誌「Library News」も作成しています。医学や看護学を学ぶ際には欠かせない文献検索の講習会を目的別に開催するなど、研究や学習の支援にも力を入れています。

令和8年3月31日現在

蔵書数[図書]

区分	和書	洋書	合計(冊)
一般教育等	30,694	6,222	36,916
専門教育	基礎医学	19,317	28,225
	臨床医学	28,858	74,275
	看護学	289	9,414
計(冊)	94,144	54,686	148,830

蔵書数[雑誌(種)]

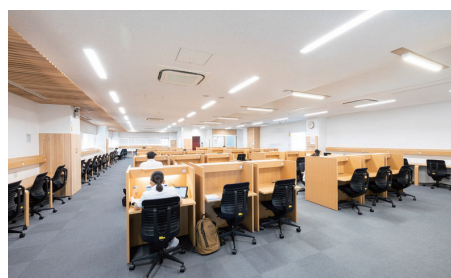
区分	タイトル数
和雑誌	2,587
洋雑誌	1,710
電子ジャーナル	5,103

蔵書数[視聴覚資料]

CD	CD-ROM	DVD	LD	ビデオテープ	その他	計
222	72	1,425	72	1,250	237	3,278



ディスカッションスペース



学習室



パソコンコーナー

保健管理センター

保健管理センターは1984年に開設され、これまで学生とともに歩んでまいりました。開設当初から学生が利用しやすいような環境づくりに努め、「敷居の低いセンター」を目指しています。

健康相談関係[医師・保健師]

利用状況(令和7年度)

月別	利用者数	健康相談		応急処置 検査	診療願 診断書	その他	延利用者数
		身体面	精神面				
4月	587	701	29	209	30	197	1,166
5月	358	472	24	149	33	119	797
6月	324	417	12	91	59	142	721
7月	185	240	19	44	33	68	404
8月	177	182	27	41	19	62	331
9月	184	226	13	57	21	84	401
10月	401	469	11	65	57	226	828
11月	346	366	26	87	34	146	659
12月	194	209	41	32	17	90	389
1月	243	240	63	53	38	111	505
2月	155	155	36	50	44	75	360
3月	263	328	15	70	35	186	634
合計	3,417	4,005	316	948	420	1,506	7,195



研究推進本部

本学の研究活動の円滑な推進のための本部で、研究推進部門と知的財産支援部門の2部門で構成されており、それぞれ臨床研究支援センターと知的財産センターが担当します。特に特殊な知識や経験、関係各所との連携などが必要となる臨床研究やTR(translational research) の推進に注力し、研究者の支援が主な業務になります。具体的には、臨床研究計画の策定および実施体制の相談・コンサルテーション、薬事申請の支援などで、また研究者教育や研究シーズの発掘、知的財産関係や研究者の産学官連携支援などもしていきます。

動物実験施設

動物実験施設は、本学の基礎・臨床研究を支える共同利用施設として、動物実験に関する包括的な支援を行っています。マウス・ラットをはじめ種々の動物を動物福祉に配慮した環境で飼育するとともに、遺伝子改変や系統保存・復元などの生殖工学技術支援、感染症や化学物質を扱う特殊実験インフラを提供しています。また手技サポートを通じて安全かつ倫理的に研究活動が行えるようバックアップしております。研究者の先生方の積極的な利活用をお待ちしております。



動物実験施設 Kurodake (K棟)

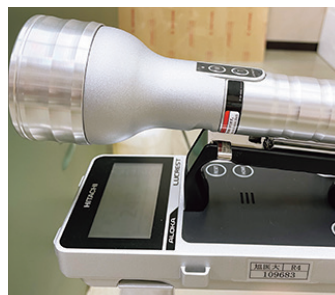
実験実習機器センター

実験実習機器センターは、本学の研究・教育を支える中核施設として、大型分析機器の管理・運用を一括して行い、遺伝子解析、メタボローム解析や組織標本作製サービスなどの専門サービスを提供しています。共焦点レーザー顕微鏡や質量分析装置などの先端機器を備え、ポスター印刷や技術講習も実施しています。学内外に開かれたオープンファシリティとして、高校や企業、その他の機関の皆様にも幅広くご利用いただけます。



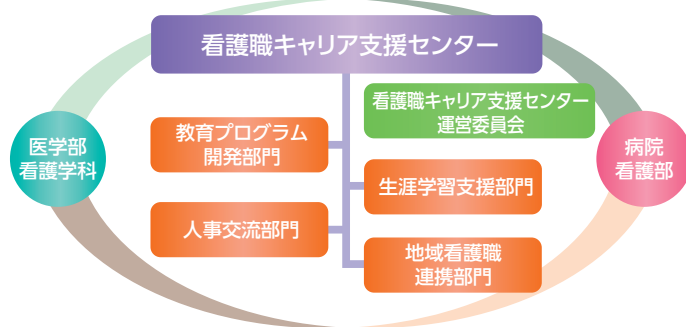
放射性同位元素研究施設

放射性同位元素研究施設は本学で唯一、放射性同位元素(RI)を使用した実験研究が行える施設として1975年に設置されました。RIの使用は法令(RI法等)及び学内規程の遵守が基本であり、施設の構造、設備、RIの使用、保管、廃棄の方法、各種の報告の義務など細かく決められています。施設には液体シンチレーションカウンタ、ドラフトチャンバなどRI施設専用の機器、設備がありトレーサ実験、照射実験等が行われています。施設を利用するには教育訓練の受講、健康診断の受診等を経て「放射線業務従事者」として登録されると許可されます。



看護職キャリア支援センター

看護職キャリア支援センターでは、看護学生、学内外の看護職、教職員を対象に、いつでも、どこからでもキャリアを磨き、職場を移ってもキャリアを中断させない教育支援体制のもと、地域の保健医療福祉・教育機関との組織横断的な連携・協力を深め、キャリアに関する継続した支援を目指しています。



看護研究・キャリアに関する相談窓口の利用状況

令和7年度

区分	件数
相談	23件

研修、講演会、セミナー等の開催状況

令和7年度

区分	開催件数	延べ参加人数
学内教職員のみ対象	3	学内 73
本学看護学科学生のみ対象	1	学内 26
学外保健師対象	1	学外 72
学内教職員及び学外看護職等対象	9	学内 161、学外 259
合計	14	591



就職に向けた心構えセミナー



実習指導者研修



患者対応に「やさしい日本語」を用いるワークショップ



訪問看護事業所との連携セミナー

地域共生医育センター

地域共生医育センターでは、病院総合診療、家庭・在宅医療、離島僻地医療、救急災害医療に広く精通するマルチタスク型地域医療医の育成事業を通じ、①各自治体や公的病院を含めたステークホルダーとの連携・協働による北海道特有の地域医療の課題の発掘、地域医療支援体制の自己点検評価と継続的改良、②課題解決に向けた新たな教育体制構築、③持続可能な地域医療課題解決のための地域医療医支援など地域の医療提供体制改革を推進する医療基盤を社会と共創することを目指しています。



専門医・育成管理センター

専門医・育成管理センターは平成30年4月から開始された新専門医制度に対応するため、平成29年に設置されました。本センターでは、専攻医に対する情報提供、連携施設ローテーションの調整、研修状況の調査ならびにセミナーの開催などを行っています。また、新専門医制度に関する様々な相談を受け付けています。今後も入学センター、教育センター、卒後臨床研修センターならびに地域共生医育センターなどと連携し、シームレスなサポートを提供していきます。

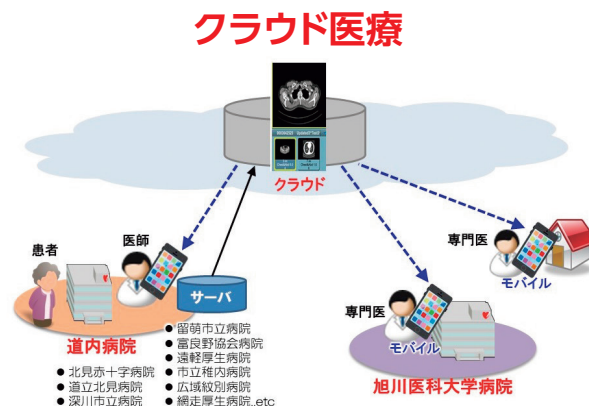
遠隔医療センター

地域間の医療格差を解消

地方の医療過疎化と、それに伴う地域間の医療格差を解消するため、旭川医科大学病院と地域病院を遠隔医療ネットワークで接続し、患者がどこに住んでいても高度な医療が受けられる体制を構築しています。

クラウド型救急医療連携支援事業

2016年10月から、道内病院と「クラウド型救急医療連携支援事業」を行っており、現在では道内13病院以上と連携しています。この事業は、インターネット上のクラウドに送られてきた患者情報を本院の専門医がスマートフォンやタブレット端末で閲覧し、診断や治療方針のアドバイス、本院への救急搬送の必要性有無の判断などを行うもので、心疾患などが発症してから治療開始までの時間が短縮されるなどの効果を得ています。



学内共同利用施設

情報基盤センター

インターネットは世界中につながり、リアルタイムの学術情報を収集できるだけでなく、本学の情報を世界に向けて発信することができます。情報基盤センターは、旭川医大キャンパス情報ネットワーク(AMEC-Net)を構成する4つのサブシステム(医学・看護研究支援システム、情報処理教育支援システム、学術情報支援サブシステム及び管理運用サブシステム)からなり、学部学生の情報リテラシー教育の場として、また学術情報収集のための電子図書館として、学内の学生・教員の情報処理活動を支援するのみならず、学外へ本学の情報を発信しています。

臨床シミュレーションセンター

臨床シミュレーションセンターは、実践的な臨床医学教育訓練の場として、次のような成果を挙げることを目指しています。

- 1 臨床前医学教育における医学入門実習及び臨床実習における基本的臨床能力の習得(学部学生)
- 2 卒後臨床研修における一般臨床技能の習得(研修医)
- 3 生涯教育として高度臨床技能の習得(医師、看護師、コメディカル)
- 4 新たな教材の開発

【利用状況(令和7年度)】

区分	利用時間数	利用人数
コンピュータ・アシストラボラトリー	592	1,704
感覚器診断スキルズ・ラボラトリー	230	468
基本的臨床スキルズ・ラボラトリー	541	957
心肺機能・救命救急スキルズ・ラボラトリー	684	1,719
手洗い練習室	277	611
教材作成室	214	417

復職・子育て・介護支援センター(二輪草センター)

育児中でも働きやすい環境

仕事と家庭の両立を助け働きやすい職場環境を整えることを目的とした施設です。「復職支援研修部門」、「キャリア支援部門」、「子育て・介護支援部門」、「病児・病後児保育部門」の4部門で組織され、それぞれの教育プログラムや各種セミナー、講演会なども開催しています。



病児・病後児保育室「のんの」

社会連携

公開講座実施状況

令和7年度実績

講座名	実施時期	講座の概要	実施回数
旭川医科大学公開講座	令和7年9月～令和7年10月	旭川市内において、一般市民を対象に実施	5
旭川医科大学生涯教育講座	令和7年7月～令和7年12月	旭川医科大学において、学内および旭川市近郊の看護師等を対象に実施	11

※一部オンライン開催も含む。

派遣講座分野別実施件数

令和7年度実績

分野	件数	分野	件数
思春期	20	口・顎の病気	1
救急医学	7	呼吸器の病気	1
公衆衛生看護	7	生活習慣病	1
精神看護	7	スポーツ医学	1
がん看護	4	眼の病気	1
教育	3	医療について	1
高齢者看護	3	健康	1
小児	3	移植	1
災害対策	2	皮膚の病気	1
からだのしくみ	2	遺伝	1
物理化学	2	アレルギー	1
骨・関節の病気	2	耳・鼻・のどの病気	1
高血圧	2	がん	1
高齢者	2	脳・神経の病気	1
摂食嚥下障害	2	労働と健康	1
地域高齢者教育	1	循環器の病気	1
妊娠・母乳育児	1		
合計			86

※高校生メディカル講座は含まない。
※一部オンライン開催も含む。

近年の国内各自治体等との協定締結一覧

締結先	協定内容	締結年月
北海道国立大学	単位互換協定	2014年 2月
北海道国立大学	学部・大学院入学前 留学生教育の実施に 関する協定	2014年 2月
富良野市及び富良野協会病院	連携協力協定	2014年 3月
深川市立病院	連携協定	2015年 4月
遠軽厚生病院及び遠軽町	連携協定	2016年 1月
一般社団法人東京オリンピック・パ ラリンピック 競技大会組織委員会	連携協定	2014年 6月
市立旭川病院	基本協定	2016年12月
芦別市	連携協定	2018年 2月
秋田大学、山口大学、 鳥取大学、香川大学	5大学包括連携協定	2025年 8月
公立大学法人横浜国立大学	包括連携協定	2025年12月
旭川市	包括連携協定	2026年 7月

派遣講座実施状況

令和7年度実績

区分	件数
旭川市	39
旭川市以外の市町村	24
小計	63
上川総合振興局以外の市町村	23
合計	86

※高校生メディカル講座は含まない。
※一部オンライン開催も含む。

地域医療を支える 人づくりプロジェクト事業

令和7年度実績

講座	実施校数
高校生メディカル講座	6

※本学教員が北海道内の高校に講師として出向く出張講座。

講座	開催日	参加者数
メディカル・キャンプ・セミナー	令和7年8月6日・7日	110

※医学部進学を目指す高校2年生対象の講演等

高大病連携による「ふるさと医療人」育成

内容	開催日	参加校数 (参加者数)
第16回 高校生による医療体験活動報告会 第15回 高校生による地域医療討論会	令和8年3月29日	12(112)



外国人研究者等受入状況

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
受入数	4	5	7

外国人留学生

令和8年5月1日現在

国名	学部	大学院		計
	私費	国費	私費	
中華人民共和国	1 (0)	1 (1)	6 (5)	8 (6)
パキスタン・イスラム共和国	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
計	1 (0)	2 (1)	6 (5)	9 (6)

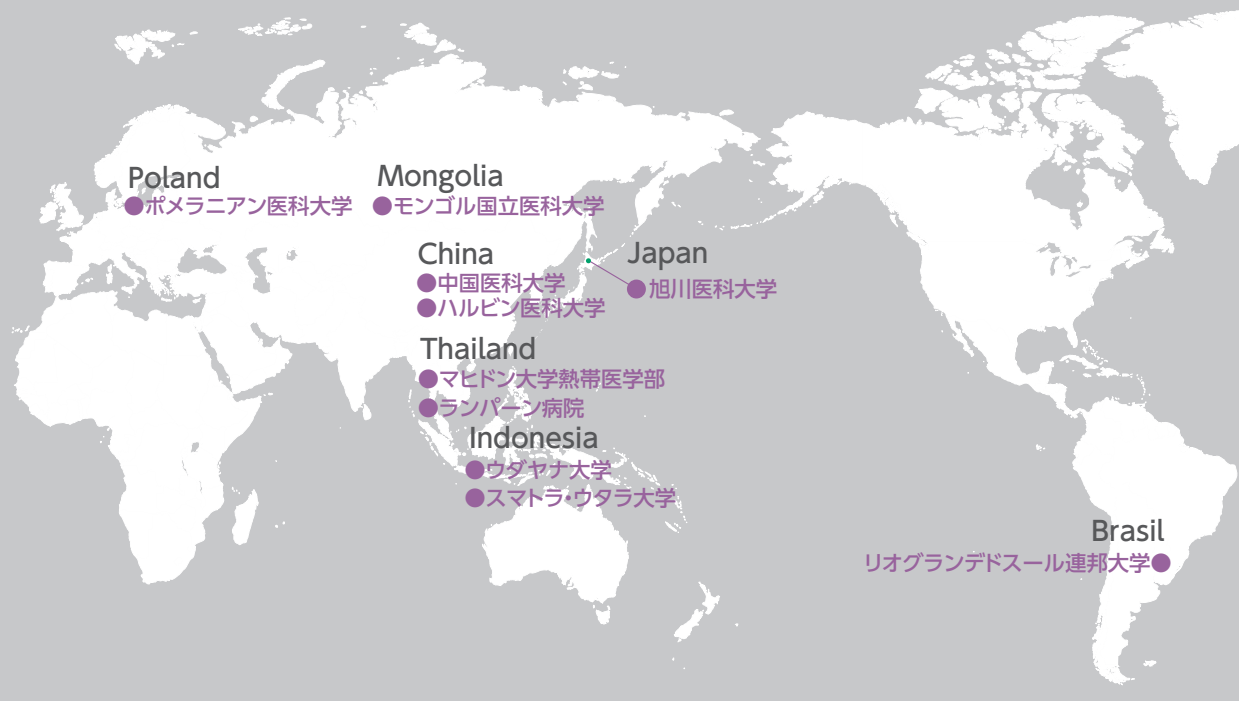
※ () 内の数字は、内数で女子を示す。

学術交流協定締結機関

令和8年5月1日現在

締結機関名	中国医科大学
国名	中華人民共和国 (遼寧省)
締結期間	2005年9月13日 - 2030年9月12日
締結機関名	マヒドン大学熱帯医学部
国名	タイ王国 (バンコク市)
締結期間	2008年3月31日 - 2028年3月21日
締結機関名	ウダヤナ大学
国名	インドネシア共和国 (バリ島)
締結期間	2008年4月21日 - 2028年5月14日
締結機関名	ハルビン医科大学
国名	中華人民共和国 (黒龍江省)
締結期間	2010年5月16日 - 2030年12月17日
締結機関名	スマトラ・ウタラ大学
国名	インドネシア共和国 (メダン市)
締結期間	2025年6月25日 - 2030年6月24日

締結機関名	モンゴル国立医科大学
国名	モンゴル国 (ウランバートル市)
締結期間	2012年7月23日 - 2027年11月15日
締結機関名	ボメラニアン医科大学
国名	ポーランド共和国 (シュチェチン市)
締結期間	2018年11月28日 - 2029年6月9日
締結機関名	リオグランデスール連邦大学
国名	ブラジル連邦共和国 (ポルトアレグレ市)
締結期間	2021年5月28日 - 2026年5月27日
締結機関名	ランパーン病院
国名	タイ王国 (ランパーン市)
締結期間	2024年6月14日 - 2029年6月13日



教育・研究費等

科学研究費助成事業 [令和7年度実績]

研究種目	件数	直接経費	間接経費	経費合計
基盤研究(B)	13	52,100	15,630	67,730
基盤研究(C)	89	87,800	26,340	114,140
挑戦的研究(萌芽)	2	5,500	1,650	7,150
若手研究	29	28,800	8,640	37,440
研究活動スタート支援	5	4,800	1,440	6,240
国際共同研究加速基金 (海外連携研究)	2	10,700	3,210	13,910
奨励研究	3	1,430	0	1,430
計	143	191,130	56,910	248,040

※主任研究者分を掲載。

(単位：千円)

外部資金 [令和7年度実績]

種目	件数	金額
寄附金	514	268,504
寄附金(寄附講座)	14	218,000
受託研究費(一般)	96	53,353
受託研究費(治験)	133	94,123
受託事業費(病理組織検査)	4,654	48,044
共同研究費	61	76,780
その他競争的研究費	8	165,904
旭川医科大学基金	60	11,418
クラウドファンディング	1,463	74,601
計	7,003	1,010,727

(単位：千円)

その他競争的研究費 [令和7年度実績]

事業名等	件数	直接経費	間接経費	経費合計
AMED 橋渡し研究支援プログラム(シーズA)	1	1,601	0	1,601
AMED 橋渡し研究支援プログラム(シーズB)	1	86,700	26,010	112,710
厚生労働省科学研究費補助金	1	1,058	1,242	2,300
内閣府 食品健康影響評価技術研究	1	2,310	690	3,000
科学技術振興機構 CREST	1	20,030	6,009	26,039
科学技術振興機構 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)	1	2,000	600	2,600
科学技術振興機構 大学発新産業創出基金事業(基金)	1	13,340	4,002	17,342
科学技術振興機構 研究成果展開事業	1	240	72	312
計	8	127,279	38,625	165,904

※主任研究者分を掲載。

(単位：千円)

令和8年度予算

収入		支出	
区分	金額	区分	金額
運営費交付金	4,868	業務費	32,049
施設整備費補助金	22	教育研究経費	4,818
補助金等収入	122	診療経費	27,230
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	18	施設整備費	199
自己収入	27,535	補助金等	122
授業料及び入学検定料収入	574	産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,026
附属病院収入	26,616	長期借入金償還金	984
雑収入	344	計	34,383
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,026		
長期借入金収入	159		
目的積立金取崩	630		
計	34,383		

(単位：百万円)

※百万円未満切捨てにより表示。

土地・建物配置図

土地・建物

S:鉄骨コンクリート R:鉄筋コンクリート SR:鉄骨鉄筋コンクリート W:木造 B:ブロック

令和8年5月1日現在

区分	土地 (㎡)	建築 面積 (㎡)	建築 延面積 (㎡)	構造・階	主な施設
本部管理棟	184,434	1,123	2,142	R2	学長室・事務局長室 他
図書館		1,256	2,735	R2-1	閲覧室 他
講義実習棟		3,027	7,239	SR4	一般教育等教員室 他
総合研究棟		1,782	13,997	SR8	専門教育教員室 他
臨床講義棟		1,490	1,590	R1-1	講義室
病院		11,964	59,628	SR11-1	外来診療棟・病棟 他
医療情報棟		295	885	R3	遠隔医療情報室 他
共通棟(A)		1,047	1,047	S1	卒後臨床研修センター 他
共通棟(B)		374	1,078	S3	専門教育教員室 他
動物実験施設A.K		1,995	4,324	R3	SPF動物飼育室 他
RI研究施設		453	948	R2	照射室・RI貯蔵室 他
実験実習機器センター 1.2		982	3,652	R3.R5	電子顕微鏡室 他
臨床研究棟		260	1,318	R5	専門教育教員室 他
共用研究棟		1,500	1,500	S2	研究室 他
看護学科棟		1,051	6,477	SR6	大講義室 他
中央機械室		2,902	3,055	R2	電気室・ボイラー室 他
屋外運動場					陸上競技場・野球場 他
体育管理施設		160	160	R1	ミーティングルーム 他
弓道場		78	78	W1	
武道場		424	424	R1	柔道場 他
体育館		1,082	1,082	S1	競技場・ロッカー室 他
福利施設		1,390	2,320	R2	食堂・保健管理センター 他
共通棟(C)		294	294	S1	研修室 他
一般管理施設		468	468	R1	廃棄物処理施設・危険物保管庫 他
物品庫		90	90	B1	
緑が丘テラス		599	599	S2	薬局・会議室 他
看護師宿舎	9,353	1,422	5,709	R5	
病院トリアージ施設		213	213	S1	
ドクターヘリポート	6,711				
駐車場	31,330				
計	231,828	37,721	123,052		

※保育園は令和6年3月31日をもって閉園しました。

建物配置図

- | | | | |
|-----------------|----------------|-----------------|--------------|
| 1 玄関棟 | 11 食堂棟 | 21 動物実験施設 (A棟) | 31 共通棟A |
| 2 外来診療棟 | 12 臨床講義棟 | 22 講義実習棟 | 32 共通棟B |
| 3 病棟 | 13 総合研究棟 | 23 福利施設 | 33 共通棟C |
| 4 新病棟 | 14 本部管理棟 | 24 体育館 | 34 体育管理施設 |
| 5 中央診療棟B | 15 図書館 | 25 武道場 | 35 弓道場 |
| 6 特殊診療棟 | 16 実験実習機器センター | 26 看護学科棟 | 36 緑が丘テラス |
| 7 中央診療棟A | 17 臨床研究棟 | 27 中央機械室 | 37 病院トリアージ施設 |
| 8 高エネルギー施設 | 18 共用研究棟 | 28 廃棄物処理施設 | 38 屋外運動場 |
| 9 MRI-CT装置棟 | 19 RI研究施設 | 29 ドクターヘリ ヘリポート | 39 大学の森 |
| 10 外来診療棟 (医療情報) | 20 動物実験施設 (K棟) | 30 看護師宿舎 | |



位置図



交通案内

JR

区間	所用時間
札幌駅 → 旭川駅	約1時間25分
新千歳空港駅 → 札幌駅 → 旭川駅	約2時間20分

タクシー

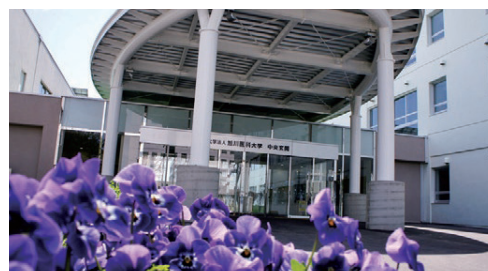
区間	所用時間
旭川駅 → 旭川医大前	約15分
旭川空港 → 旭川医大前	約20分

旭川駅前からバス[旭川駅前(緑橋通り)27番のりばから乗車]

区間	所用時間
旭川電気軌道バス[71番] / 旭川駅前 → 医大病院前(緑東大橋経由)	約35分

旭川空港からバス[旭川空港前のりばから乗車]

区間	所用時間
ふらのバス/旭川空港 → 旭川医大	約30分





機関別認証評価認定マーク

学校教育法第109条第2項の規定に基づき、大学改革支援・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受け、令和4年3月24日付けで「大学評価基準を満たしている」との認定を受けました。



医学教育分野別評価認定マーク

医学部医学科は、令和元年度に一般社団法人日本医学教育評価機構(JACME)による医学教育分野別評価を受審し、本学の医学教育が国際基準に準拠していると認定されました。



看護学教育評価認定マーク

看護学科は令和4年度に看護学教育評価を受審し、日本看護学教育評価機構(JABNE)が定める「日本看護学教育評価基準」に「適合」していると認定されました。



くるみんマーク

平成27年6月25日付けで北海道労働局長から次世代育成支援対策推進法第13条に基づく「基準適合一般事業主」(子育てサポート企業)に認定され、次世代認定マーク「くるみんマーク」を取得しました。



多様な働き方推進事業者認定マーク

令和7年11月26日付けで旭川市長から多様な働き方推進事業者認定・表彰制度に基づく「多様な働き方推進事業者」として最上位区分であるプラチナ認定を受けました。



旭川医科大学学章

雪の結晶により北海道を、旭川市民の木「ナナカマド」により旭川をイメージすることができ、その中央の医大の文字により、北海道の中央にある「旭川医科大学」をイメージしています。



旭川医科大学ブランドマーク

イニシャルの「A」をストライプで図案化。右上がりに跳ねる様は、豊かな自然の旭川から医療人及び研究者を育成し、地域に根ざした医療及び福祉のさらなる向上(発信)を表現。紫は、ラベンダーの景観や医療の英知・国際貢献、緑は再生や生命の輝きを意味しています。

National University Corporation
Asahikawa Medical University



〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

Tel. 0166-65-2111

<https://www.asahikawa-med.ac.jp>

[編集]旭川医科大学総務課

UD FONT

